



2027

Nara Women's University

奈良女子大学 大学院案内

● 2026年度 秋季入学者 ● 2027年度 入学者

大学院人間文化総合科学研究科
修士課程・博士前期課程・博士後期課程



奈良女子大学 入試課 TEL.0742-20-3023

〒630-8506 奈良市北魚屋西町 <https://www.nara-wu.ac.jp/>

Contents

大学院の紹介

- ①メッセージ（学長及び人間文化総合科学研究科長）…………… 1
- ②沿革・基本理念・目的…………… 1

大学院の教育・研究

- 博士前期課程…………… 2

- 専攻の概要…………… 2

〔人文社会学専攻、言語文化学専攻、人間科学専攻、食物栄養学専攻
心身健康学専攻、情報環境学専攻、住環境学専攻、生活文化学専攻
数物科学専攻、化学生物環境学専攻、工学専攻（修士課程）〕

- 博士後期課程…………… 16

- 専攻の概要…………… 16

〔人文科学専攻、自然科学専攻、生活環境科学専攻、生活工学共同専攻〕

- 教員の研究領域…………… 21

キャリア形成・支援

- ①取得できる学位及び資格…………… 22

- ②単位互換制度…………… 22

- ③長期履修学生制度…………… 23

- ④再チャレンジ型女性研究者支援制度（博士後期課程）…………… 23

- ⑤博士前期課程修了者博士号取得支援制度（博士後期課程）…………… 24

- ⑥奈良女子大学次世代研究者育成プログラム
SGC-NEXUS（博士後期課程）…………… 24

- ⑦教育方法の特例制度…………… 24

- ⑧入学金・授業料免除及び奨学金…………… 24

- ⑨充実した博士後期課程学生への経済的支援…………… 25

- ⑩キャリア形成支援…………… 26

- ⑪学業・研究とライフイベントの両立、キャリア開発支援…………… 26

- ⑫修了者の進路…………… 27

- ⑬大学院修了者の主な就職先企業等名一覧…………… 27

- 学位取得者の論文題目一覧（2026年3月修了者）…………… 27

- 在学者・修了者の声…………… 28

- 入試情報…………… 30

1 メッセージ

■ 奈良女子大学長 高田将志

<https://www.nara-wu.ac.jp/nwu/intro/message/>



■ 大学院人間文化総合科学研究科長 高地リベカ

<https://www.nara-wu.ac.jp/daigakuin/message.html>



2 沿革・基本理念・目的

■ 奈良女子大学大学院の沿革

<https://www.nara-wu.ac.jp/nwu/intro/history/>



■ 奈良女子大学大学院の基本理念

<https://www.nara-wu.ac.jp/daigakuin/kihon.html>



■ 奈良女子大学大学院の目的

奈良女子大学大学院は、「学際性の推進」、「専門性の高度化」、「個性化の確立」、「国際感覚の涵養」を柱とし、豊かな人間性と高度な知性を備えた人材を養成することを目的とします。

■ 採択されたプログラム一覧

<https://www.nara-wu.ac.jp/nwu/research/program/>



“したい意欲”を、“できるチカラ”に変えるために—

大学院・博士前期課程(修士課程)で、学ぶ。

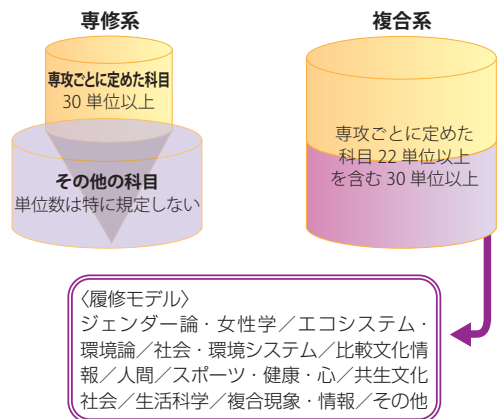
1. 人間文化総合科学研究科・博士前期課程(修士課程)の目的と特色

人間文化総合科学研究科・博士前期課程(修士課程)の目的

人間文化総合科学研究科・博士前期課程(修士課程)は、広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力または高度の専門性を要する職業等に必要能力を備えた人材を養成することを目的とします。

人間文化総合科学研究科・博士前期課程(修士課程)の特色

大学院修了者に対する社会の多様な要求に対応するため、人間文化総合科学研究科・博士前期課程(修士課程)では、研究者養成だけでなく、高度な専門的知識を有する職業人の養成についても行っています。その社会的使命にふさわしい教育を展開するため、高度な専門的能力を有する専修系と幅広い視野を備えた多様なタイプの優秀な人材を養成する複合系の2つの履修系列を設けています。なお、キャリア形成支援の観点から、キャリア教育科目(教職専門科目等)については、学部開設科目の履修単位に制限を設けておりません。



2. 人間文化総合科学研究科・博士前期課程(修士課程)の各専攻・コースの教育研究内容

学部	博士前期課程(修士課程)	博士後期課程
文学部	人文社会学専攻 歴史学コース 地理学コース 社会学コース 歴史学・地理学・社会学のいずれかを基盤として、幅広い視野から歴史・社会・文化・自然・地域などについて教育研究します。	比較文化学講座
	言語文化学専攻 日本語文化学コース ヨーロッパ・アメリカ言語文化学コース 国語学・国文学・中国語学・中国文学・英語学・言語学・イギリス文学・アメリカ文学・ドイツ文学・フランス文学について教育研究します。	社会人間学講座
	人間科学専攻 教育学・人間学コース 心理学コース 哲学・思想、教育学、心理学、音楽、身体文化学について教育研究します。(なお、現在哲学・思想については担当教員不在のため、受け入れはしていません。)	
生活環境学部	食物栄養学専攻 食品科学、栄養科学、分子病態学、臨床栄養学、微生物学、公衆栄養学など食に関する多様な教育研究を行います。	食物栄養学講座
	心身健康学専攻 生活健康学コース スポーツ科学コース 臨床心理学コース 生理学、環境生理学、神経科学、生化学、住環境学、スポーツ科学(スポーツ社会学、スポーツ法学、スポーツ生理学など)、臨床心理学(乳幼児心理臨床、認知行動科学、犯罪心理学、学生相談、家族心理学)の教育研究を行います。	心身健康学講座
	情報環境学専攻 衣環境学コース 生活情報通信科学コース コンピュータシステム、ソフトウェア工学、人工知能、知的エージェント、情報理論、衣環境管理学、衣環境素材などの教育研究を行います。	情報環境学講座
	住環境学専攻 建築構造デザイン論、建築環境論、住環境管理論、住環境史論、住居論、生活空間計画論、住環境デザイン論、景観設計論などの教育研究を行います。	住環境学講座
文化情報学科	生活文化学専攻 家族社会学、消費者法学、比較ジェンダー史、環境社会心理学、消費経済学、応用経済学、表象文化論について教育研究を行います。	生活文化学講座
理学部	数物科学専攻 数学コース 数論、代数学、代幾何学、多様体論、位相幾何学、幾何学、確率論、確率微分方程式、函数解析学、関数方程式論、微分幾何学などの教育研究を行います。	数物科学講座
	物理学コース 素粒子論、ハドロン物理学、原子核理論、高エネルギー物理学、宇宙物理学、観測的宇宙論、放射線物理学、凝縮系の物理学、非平衡ダイナミクス、金属物性物理学などの教育研究を行います。	
	数物連携コース 応用トポロジー、ゲーム情報学、凝縮系の物理学、非平衡ダイナミクスなどの教育研究を行います。	
	化学コース 化学的現象の解明や新機能性分子の創造を目指し、物理化学、有機化学、無機化学に立脚した研究教育を行います。	自然科学専攻 化学生物環境学講座
生物科学コース 多種多様な生物が分子から生態系まで様々なレベルで織りなす現象を理解することを目指し、分子生物学、生化学、細胞生物学、発生学、生理学、形態学、遺伝学、進化学、ゲノム生物学、分類学、行動学、生態学など様々なアプローチにより生物科学研究を行い、研究の実践に基づいた教育を行います。		
環境科学コース 人間を含む生物と環境の相互作用や、ミクロからマクロまでの環境の構造と動態を科学的に解明するとともに、環境問題の改善のための方法の開発と環境対応社会の構築を目指すことを目的とし、地球環境科学、数理生命システム、環境化学、生物環境学の4分野における教育研究を行います。		
工学部	工学専攻 人間工学、生理学、運動学、認知神経科学、生体力学、計測工学、HCI、機械学習、データサイエンス、触覚情報伝達、人間情報学、福祉工学、建築設計、造形美術、建築環境工学、人間工学、高分子・繊維材料、機能性金属錯体、ゲル材料、固体イオニクス材料、超分子化学などの教育研究を行います。	



専攻の概要

【博士前期課程】

人文社会学専攻

歴史学・地理学・社会学のいずれかを基盤として、幅広い視野から歴史・社会・文化・自然・地域などについて研究する専攻です。

教育理念

人文社会学専攻は、歴史学、地理学、社会学のいずれかを基盤として、学際的に諸問題を探求できる人材を育成することを目的としています。従来の枠組みにとらわれることなく、関連分野に対しても熱いまなごしを注ぐことができる意欲的な学生を望みます。

求める学生像

左記の教育理念にもとづき、次のような資質と能力を有する学生を求めます。

- ・専門分野に関する基礎的知識
- ・資料や文献を読み解くための語学力
- ・調査・分析、フィールドワークなどを行うための研究方法に関する経験・知識
- ・調査結果や文献などを適切に分析し、論理的に説明する能力
- ・大学での学修・研究を基盤とした明確な研究展望
- ・社会生活に根ざした真摯な問題意識
- ・大学院における研究を広く社会に還元する意欲

本専攻は、歴史学コース、地理学コース、社会学コースの3コースで構成されています。歴史学・地理学・社会学が、従来の枠組にとらわれることなく有機的に連携して、社会科学や人文科学、さらに自然科学に及ぶ多彩な授業科目を用意しています。歴史、社会、文化、自然、地域などの諸分野を対象とした各専門領域を深めるとともに、学際的に諸問題を探求できる人材を育成します。

歴史学コース

歴史学コースは、日本史・東洋史・西洋史・考古学・美術史から構成されており、歴史を総合的に学ぶ場を提供しています。さまざまな言語で記された文献の読解・分析や、人間の諸活動の成果である遺跡や遺物、文化財などの見学・調査を通して学びを深めるとともに、対象とする時代や地域、方法の差異を越えて意見交換を行うことにより、広い視野から歴史上の諸問題について考えるコースです。

そこでは、日本・アジア・ヨーロッパを中心に、さまざまな地域のアイデンティティについて、また、いろいろな時代の政治や経済、外交、社会、思想、文化について、自分自身の問題関心を育みながら学ぶことができます。古代日本の都がおかれ、列島規模の交通の、さらには国際交流の一つの拠点であった奈良の地は、居ながらにして歴史を感じさせてくれるところです。そうした環境のなかで、みずからの興味・関心を学問上の問いへと深め、追究することにより、地域間格差や紛争、環境問題など現代の私たちが抱える問題に向き合う上でも広く求められる歴史的思考を培うことができるでしょう。



絵図の検討

地理学コース

文系・理系の知を融合する総合的な科学の構築をめざす地理学コースでは、人文地理学、自然地理学、地誌学、地域研究を視座に置き、人間活動と地域・環境との関係性を多面的に研究します。さらにこれらに関連する諸学問の理論について学ぶとともに、インタビューやアンケートを用いた調査方法、地域調査データや地理情報の高度な解析・分析手法を身につけることで、野外調査を含む地域調査を自ら企画・実践する能力を養うことができます。

このような専門的な知識・技術を活かして、たとえば、地域の自然・社会・経済、都市の成り立ち、まちづくり、生活文化、ツーリズム、ポピュラーカルチャー、ジェンダー、景観・環境問題、自然災害などのテーマについて、国内や海外をフィールドとして、グローバルな視点からミクロな視点まで、多様な空間スケールで研究を行います。地域に関わる多様な資料・情報・データの分析に必要な高度な技術・知識をしっかりと身につけ、人間活動と地域・環境との関係性を多面的に捉える鋭い観察力と的確な分析力を培うことができる点が、本コースの大きな特徴です。



鹿児島県・開聞岳周辺でフィールドワーク

社会学コース

私たちの生きる社会は、人々のつながり（関係）とそのつながりを基礎とした仕組み（制度・構造）と、それらを持続あるいは変化させる媒体（文化・コミュニケーション）から成り立っています。社会学コースでは、これら社会を構成する要素を基本的視点に置きつつ、現代社会で生じている諸現象を読み解くことを目的としています。具体的には、グローバル化、ジェンダーと家族、都市と地域、格差と不平等、コミュニティと社会ネットワーク、文化とメディア、多様性が進展する社会における共生などのさまざまなテーマ・領域を扱います。

コースでの学びを通して、人間の多様性やグローバル社会への視座も重視しながら、高度で専門的な社会学的思考力と分析技法を習得します。さらに、社会学的な探究と関わりの深いジェンダー論、メディア論なども学びつつ、現代社会において解明すべき課題を自ら設定し、その課題に積極的かつ独創的に取り組む能力を身につけます。



社会学のさまざまな文献

本専攻の院生は、以上のような多彩な内容をもつ3コースのいずれかに所属し、各コース・分野の専門領域について深く研究する一方、必要に応じて関連諸分野の他コースや他専攻の授業を受講することによって、独自の研究領域の開拓を目指すことができます。

本専攻を修了すれば、修士（文学、学術）の学位が与えられ、教員の専修免許（中学校社会、高等学校地歴、高等学校公民）や学芸員資格、専門社会調査士資格の取得が可能です。加えて、所属するコースや分野の専門的知識・技能を習得することによって、新しい職業キャリアへの道が開かれています。

また、本学大学院博士後期課程へ進学を希望する場合、人文科学専攻の比較文化学講座や社会人間学講座のいずれかへの進学も可能です。この点にも本専攻の他にない幅広さが表れているといえます。

本専攻を修了して、公務員・教員・研究職・一般企業などで活躍している諸先輩も多く、バラエティーに富んだ進路が開けています。

さらに研究を続けたい人は ⇒ 博士後期課程人文科学専攻比較文化学講座または社会人間学講座へ

言語文化学専攻

国語学・国文学・中国語学・中国文学・英語学・言語学・イギリス文学・アメリカ文学・ドイツ文学・フランス文学について、広い視野から深く学ぶコースです。

教育理念

言語文化学専攻には、日本・中国およびヨーロッパ・アメリカの言語や文学を専門とし、さまざまな方法で研究を行う教員が集っています。この多様性を活かして、例えば、日本近代文学を専門としつつ、フランス文学理論をあわせて学んだり、写本の一字一字を丹念に読む文献学的方法と、コンピュータによるテキスト分析の方法を共に身につけるなどといった、自分の研究テーマをしっかりともち、かつ幅広い視野に立った研究にチャレンジする学生を育てます。

求める学生像

左記の教育理念にもとづき、次のような資質と能力を有する学生を求めます。

- ・専門分野に関する基礎的知識
- ・資料や文献を読み解くための語学力
- ・調査結果や文献などを適切に分析し、論理的に説明する能力
- ・大学での学修・研究を基盤とした明確な研究展望
- ・社会生活に根ざした真摯な問題意識
- ・大学院における研究を社会に還元する意欲

日本アジア言語文化学コース、ヨーロッパ・アメリカ言語文化学コースの2コースから構成され、研究課題分野は国語学・国文学・中国語学・中国文学・英語学・言語学・イギリス文学・アメリカ文学・ドイツ文学・フランス文学などの諸分野にわたります。本学の博士後期課程に進学して博士(文学)の学位を取得し、研究者として自立する道が開かれています。また高等学校専修免許(国語・英語)のほか、各種資格が取得可能です。

日本アジア言語文化学コース

日本アジア言語文化学コースは、日本と中国の言語と文学作品を中心に、東アジアの言語文化を視野におさめながら、研究するコースです。

古代から現代にいたる日本語の歴史、万葉集などの上代文学、物語文学や説話集から和歌や連歌などの多彩な広がりをもつ中古～中世文学、出版文化の隆盛とともに展開していく近世の諸文芸、明治・大正・昭和と展開してきた近現代文学、そして、世界で最も長い伝統を誇る中国文学・中国語学。本コースはこれらの諸領域を研究する教員によって構成されています。

それぞれの専門の研究指導のもと、時代・社会・文化的背景に即して深く探究すると同時に、固定観念を捨てた斬新な視点で、あるいは領域横断的に、言語と文学への考察を進めていくことが望まれています。演習・講義および研究指導は、すぐれた専門性と各領域相互の密接な連携によって行われており、教育・研究環境は多彩かつ充実しています。資料や文献を丹念に読解するとともに、確かな分析と論理にもとづいて探究する、独創的な研究を目指します。



毎年2月に行われる卒業論文・修士論文発表会での大学院生の発表及び質疑応答場面

ヨーロッパ・アメリカ言語文化学コース

ヨーロッパ・アメリカ言語文化学コースは、次の5分野が、国境を超えて相互交流し、より広い視野からの研究を進めています。

- ・英語学・言語学では、ことばとコミュニケーションを言語学の視点から幅広く研究します。音声・語・文・談話などの言語構造の分析や、英語・日本語を含む複数言語の比較研究も可能です。特に、認知語用論をはじめとする語用論や会話・談話研究に関連する授業も充実しており、理論と実証の両面から研究を深めることができます。
- ・イギリス言語文化学：シェイクスピアの時代から現代に至る詩・戯曲・小説等の代表的作品を、それらの背景となる歴史・文化を視野に入れつつ、同時に現代の批評意識をも反映させた斬新な研究を目指します。
- ・アメリカ言語文化学：清教徒的倫理性と奔放な想像力、前衛と移民文化継承、それら多様な魅力を併せもつ文学の、伝統的分析批評と共に、本国のアメリカン・スタディーズを視野に入れた学際的研究をも目指します。
- ・ドイツ言語文化学：ドイツ、スイス、オーストリアに広がるドイツ語文化圏の作家、詩人の作品と人間について、欧州の文化史的背景を視野に入れながら、超越の世界への独特の関心に貫かれた言語・芸術の諸相を研究していきます。
- ・フランス言語文化学：美しいフランス語の精華を究めつつ、人間にたいする興味に貫かれた詩・小説・演劇を、他の芸術(映画、美術、音楽)や学問(記号学、文化人類学、精神分析学)も視野に入れて研究します。



さらに研究を続けたい人は ⇒ 博士後期課程人文科学専攻比較文化学講座へ

人間科学専攻

哲学、教育学、心理学、身体文化学、音楽などを基盤に、人間存在とその営みのさまざまな側面について幅広く学ぶコースです。

教育理念

人間科学専攻は、哲学・思想、教育学、心理学、音楽教育学、身体文化学等の研究を通して、人間と人間の行動について広い視野から深く学ぶことを目的としています。教育学・人間学コースでは、人間形成と人間存在に関わる幅広い事象について、高度な専門教育と研究を行います。心理学コースでは、人間の心と行動そして人間関係について、理論と実践の両方を視野に入れて高度な専門教育と研究を行います。

求める学生像

上記の教育理念にもとづき、次のような資質と能力を有する学生を求めます。

- ・専門分野に関する基礎的知識
- ・資料や文献を読み解くための語学力
- ・資料の分析、実験や観察、フィールド調査などの研究方法に関する知識と能力
- ・調査結果や文献などを適切に分析し、論理的に説明する能力
- ・大学での学修・研究を基盤とした明確な研究展望
- ・社会生活に根ざした真摯な問題意識
- ・大学院における研究を社会に還元する意欲

人間科学専攻は、以下の2つのコースからなり、人間を理解し、人間の諸行動そして文化を探究するという共通の課題を有しています。コース間の連携を保つことによって、より高度な教育と研究を行うことができます。

また本専攻においては、幼稚園・小学校教諭の専修免許状を取得することができます。

修了後は、専修免許状を持った教員、自治体の生涯学習担当、教育や福祉領域や医療における心理職などの専門職として活躍できます。また、大学院における学修・研究を活かして、多様な職種的一般企業や公的機関にも就職しています。博士後期課程に進学し、博士の学位を取得する道も開かれています。

教育学・人間学コース

教育学・人間学コースは、人間形成と人間存在に関わる幅広い事象—教育の思想と実践、哲学・倫理学上の思想的諸問題、身体にかかわる文化、芸術、メディア、音楽や音楽教育、音楽文化等—を教育・研究の対象とします。

「教育学分野」では、人間の成長・発達及び教育の構造について原理的・歴史的・実証的に解明を試みます。

「哲学・思想分野」では、人間をその存在そのものにおいて根本的に究明し、社会の倫理的基盤について考察します。

「音楽教育学分野」では、音楽と人間のかかわりを根源的に問うために、歴史・社会・文化を含めた複眼的な視点からアプローチしていきます。

「身体文化学分野」では、身体という切り口から文化の多様な側面について歴史的・社会的な理解を試みます。

本コースでは、文献資料による理論的研究、実証的研究、観察・インタビュー・アンケート等の調査による実証的研究など、多様な研究方法を批判的に吟味しつつ活用します。

現代社会における様々な人間の営みについて生き生きとした関心を持ち、その問題点を原理的に探究するとともに創造的に克服していく、高度な専門的能力を身につけた学生を育てます。

(なお、「哲学・思想分野」は、現在、担当教員不在のため、受け入れはできません。)



演習でのグループディスカッション

心理学コース

心理学コースでは、エビデンスに基づいて「心」を科学的に研究し、人間とは何かという根源的な問いを探究します。知覚・認知などの基礎心理学、教育と発達の心理学、対人関係や社会心理学、ジェンダー心理学などの多角的な見地から学び、研究します。一人ひとりの人間の心のはたらきや、そのあらわれとしての行動だけでなく、人と人との関わりの中で生まれる相互作用、幼稚園・学校や社会の中での人々の営みなど、様々な対象について、心理学の手法を用いて描き出し、分析し、考察します。実験や質問紙調査などを用いる量的研究、フィールド観察や面接などを用いる質的研究のどちらであっても、現象を深く鋭く追求して学問の発展に資するとともに、研究を通して社会に貢献することを目指す学生を育てます。

また、本コースでは、公認心理師(国家資格)の資格試験の受験要件を満たす教育課程も備えています。公認心理師資格試験の受験要件を満たすためには、同資格に対応する学部教育課程で単位を取得して卒業し、大学院にて同資格に対応する講義9科目と450時間以上の実習の単位を取得して、博士前期課程を修了する必要があります。

人間をより深く理解するためには、様々な知識や研究手法が必要です。同時に、心理学によって何をを目指すのか、研究を通して人間の幸福に貢献するとはいかなることなのかなど、研究営為の社会的意義を常に問う姿勢が求められます。様々な現象に不思議さを感じ取れる好奇心と、その追究に意味を見いだせる、研究意欲をもった学生を期待しています。



心理教育相談室での活動風景



小学生の活動の観察調査風景

さらに研究を続けたい人は ⇒ 博士後期課程人文科学専攻社会人間学講座へ

食物栄養学専攻

病気を予防し、健康を維持・増進する食生活を実現するために、食物の栄養、機能、安全性をはじめとする、現代の食に関わる多様な問題を研究・教育することを目的とします。

教育理念

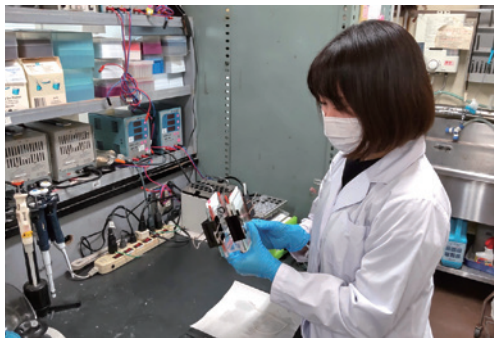
本専攻は、病気を予防し、健康を維持・増進する食生活を実現するために、現代の食に関わる多様な問題について研究・教育することを目的とします。したがって、広い視野に立ちこの分野に対する意欲的な研究マインドを持つ学生を望みます。

求める学生像

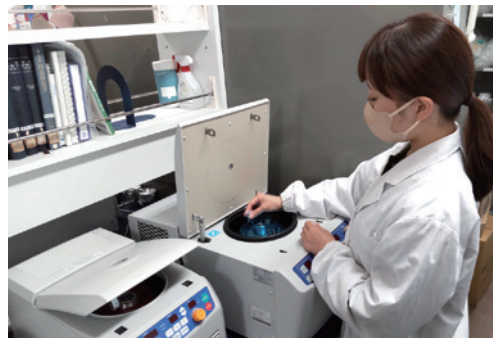
- ・一定の科学的知識を備えている
- ・食物栄養学において将来の科学的展望を切り開いていこうとする意欲がある
- ・科学論文を理解する語学力と読解力がある

本専攻は、健全で快適な食生活の創造を目的として、医学、農学、薬学、工学などの専門領域の情報を集約し、食物の栄養性・機能性・安全性・嗜好性・調理加工性などに加えて、疫学的臨床研究など、分子レベルから生体、さらには集団としての人の研究まで、広い範囲にわたって研究・教育を行います。

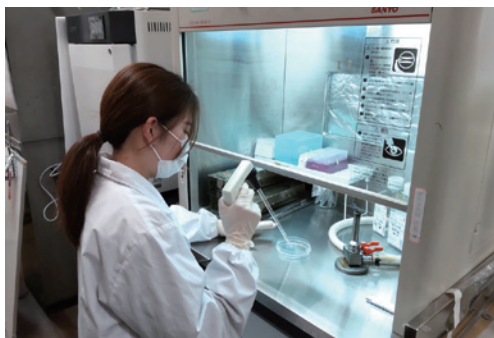
本専攻では、食物・生命・健康・環境等について高度で幅広い知識と研究能力を持った人材、例えば新規食品や食品加工法の開発研究者、食品分析の専門技術者、製薬、保健・健康関連企業等の研究開発スタッフ、地域社会における食生活・健康の指導者（行政）、食物栄養学関係の大学・短大教員などの人材の育成を目指しています。また、中学・高校家庭科教師の専修免許、管理栄養士の資格のある人は栄養教諭の専修免許が取得できます。生活関連企業の研究開発員、官公庁の生活関連の職員などが期待されます。



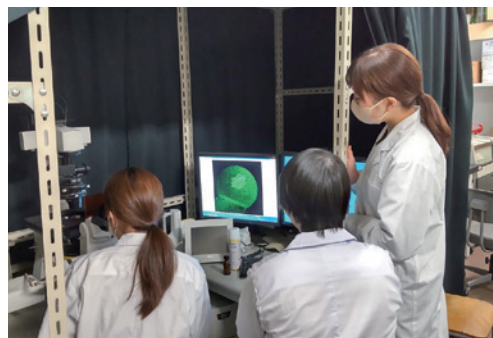
実験準備の様子



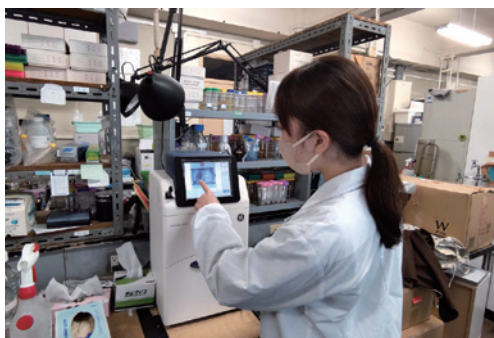
実験試料調製の様子



細胞培養作業の様子



細胞観察の様子



測定・データ解析の様子



ディスカッションの様子

さらに研究を続けたい人は ⇒ 博士後期課程生活環境科学専攻食物栄養学講座へ

心身健康学専攻

健康な人間生活のあり方を、こころと身体の健康という視点から研究・教育することを目的とします。

教育理念

心身健康学専攻は、心と身体の健康と人間を取り巻く環境との相互作用について学び、高度な科学研究の成果を応用して健康で安全な生活を実現するための知識と技能を身につけた人材の育成を目的としています。これらの知識や技能を身につけるために、3つのコース（生活健康学コース、スポーツ科学コース、臨床心理学コース）を設け、それぞれの視点からより深く研究教育を行います。高い専門性を保ちながら、幅広い視点で健康や生活のあり方について考え、よりよい生き方や環境のあり方を提案することにより社会に貢献できる人材を育成することを教育理念としています。

求める学生像

- 心身健康学専攻は次のような資質および意欲をもつ学生を求めます。
- 身近な生活環境、社会環境、生活習慣と心身の健康との関連を深く探究しようとする学生。
- 個々の学問領域の基礎となる専門知識を有し、新たな認識・知識の獲得に意欲的な学生。
- 心と身体の健康に関する知識を総合的に学び、高度な専門的知識を再構築する意欲ある学生。
- 幅広い事業分野で専門職業人として、女性リーダーとして社会貢献を目指す学生。
- さまざまな分野で国際社会に貢献することを目指す学生。

本専攻は、生活健康学コース、スポーツ科学コース及び臨床心理学コースの3つのコースから成り立っています。これら3コースはそれぞれ次のような特徴を持っています。

生活健康学コース

生活の中における複雑な健康問題を研究するためには、衣・食・住に加えて、運動や栄養、ストレスなどとの関連から健康について統合的に考える思考力が必要とされます。したがって、本コースでは、生活環境、生活習慣と健康との関わりについて総合的な視野に立って、研究・教育し、健康について高度で幅広い知識と判断力をもつ人材の養成を目指しています。生理学、神経科学、生化学、認知科学、神経内分泌学などの専門領域の情報を集約し、分子レベルから生体までの広い範囲にわたって研究・教育を行います。健康についての幅広い知識を深めながら、専門領域における創造性のある研究資質を育てています。

本コース修了生の進路としては、健康・生活関連企業や製薬・医療関連企業などで研究開発に従事する研究員、大学・短大教員、官公庁の健康・生活関連の専門職員などがあり、各分野で専門職としての活躍が期待できます。また、専修免許を持つ中学・高校家庭科教師などへの道も開かれています。



スポーツ科学コース

現代社会では、からだやスポーツの象徴性という視点を通して人間や社会のありようを考える必要性が高まっています。本コースでは身体運動やスポーツをとりまく諸現象を、人文・社会・自然科学からのアプローチにより解明し、社会に貢献します。

遊びやスポーツの歴史、現代スポーツが抱える諸問題、スポーツにまつわる法や政策、社会環境と生涯スポーツ、運動・スポーツの実施が心身にもたらす効用、身体運動の習熟過程とそれに伴う心理的変容などをキーワードに、文献、調査、実験などを駆使して研究し、専門性を高めていきます。

研究の方向性をより確かなものにするために、大学での学びに加え、幅広い年齢層を対象とした地域連携事業や地域スポーツイベントへの参画によって様々な他者や最新の事例に出会う機会を用意しています。自らの研究課題に真摯に向き合う、データを収集し分析する、的確に説明する、対象にフィードバックを行うなどのプロセスを通して、新しい知見を世に問う積極性や実践応用力を身につけていくことができます。

教育や福祉、スポーツ産業をはじめ、ウェルネス志向の高まる社会の様々な領域に、この専門性を活かせる場が広がっています。



臨床心理学コース

現代社会では、うつ、不安、発達障害、不登校、非行などさまざまなこころの問題があります。本コースでは、このようなこころの問題に関することについて研究します。心理学の立場から、科学的にこころの問題を捉える方法である心理検査をはじめとした心理アセスメント法を学ぶとともに、それら問題を抱えている人たちの回復を援助するためのカウンセリング・心理療法について、知識を学ぶだけではなく、個別スーパービジョンやケースカンファレンスを受けつつ、学内の臨床心理相談センターや学外の協力施設での実習を受けることで、身につけていきます。将来、臨床心理学の専門家として活躍できる人材を育てます。

大学で必要な単位を取得したうえで、大学院の本コースで必要な単位を取得することで、公認心理師試験の受験資格を得ることができます。

また、本コースは臨床心理士指定大学院(第1種)ですので、本コースを修了することで臨床心理士の受験資格が得られます。



さらに研究を続けたい人は ⇒ 博士後期課程生活環境科学専攻心身健康学講座へ

情報環境学専攻

情報環境学専攻では、情報技術や衣環境の専門分野の高度な知識を活かした衣環境のフロンティアと、ライフコンピューティングを創出するシステム開発の教育研究を行います。これにより、生活環境を質的に向上させる基礎研究、生活者を見守り支える仕組みを創出するハードウェアならびにソフトウェアの社会還元を目指しています。

教育理念

情報環境学専攻は、快適・健康・安全で質の高い生活環境を創り出すために必要な衣環境に関わる新しい技術開発や諸問題の研究に取り組める指導の人材を育成すること、現代社会の ICT 環境を構成しつつあるライフ・コンピューティングの観点から生活環境を改善する技術を開発し社会に発信できる人材を育成すること、を基本理念とし、さらに融合的な先端学際領域で活躍できる人材を育成するために、衣環境学コースおよび生活情報通信科学コースにおいて、多岐多様な分野に関する最先端の研究教育を行っています。

求める学生像

本専攻は衣環境学と生活情報通信科学を軸とする生活環境科学の多様な教育研究を行っています。従来の科目区分の枠に取まらない学際的な研究分野に興味を持ち、安全で快適な衣環境設計やライフ・コンピューティングの展開に積極的に関わる意欲のある学生を歓迎します。専門分野の研究を十分に行うために英語の能力も必要です。以上の点に関して十分な知識を習得していることを期待します。

ライフコンピューティングとは本専攻が提案・推進する新しい概念であり、ビックデータ解析に人工知能技術を組み合わせ、生活者を見守り支える仕組みの全般を意味します。衣服では人が活動しつつ生体情報を得るような健康管理分野が注目を浴び、衣服の拡張としてのウェアラブル情報端末による生活ナビゲーションなどの付加技術が注目を浴び、高齢化社会を支え、地域格差を解消する超スマート社会の実現が期待されています。このような社会的な要請に応えられる革新的な生活環境を実現できる人材を養成することを目指して活動しています。

衣環境学コース

健康で快適かつ安全な生活のあり方を、物質科学、環境科学、分析化学の原理や技術をもとに、衣環境学に関連する情報処理やデータ解析など衣環境学の先端技術について研究し、創造性豊かな研究能力や人々の生活や社会のための衣服を創造、企画設計できる能力を習得するための研究教育を行っています。

生活情報通信科学コース

ICT を駆使して生活の質を向上させる技術であるライフコンピューティングを推進するための教育研究を、コンピュータシステム、ソフトウェア工学、アプリケーション、人工知能、情報基礎等の網羅的な科目群で学ばせ、創造性豊かな研究能力や、生活者のためのサイバー社会を創造、企画設計できる能力を習得するための研究教育を行っています。



脳波測定の様子



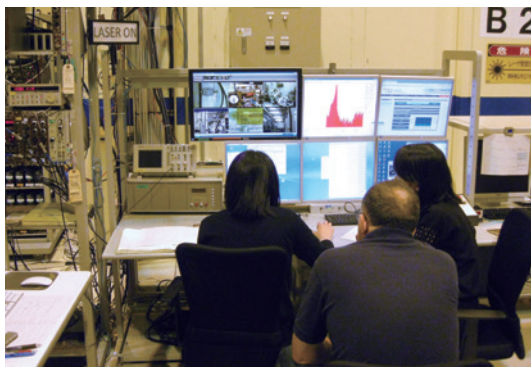
(研究成果) 経路探索ロボット



(研究成果) 近代デジタルライブラリ



ゼミ風景



放射光研究施設での実験風景

さらに研究を続けたい人は ⇒ 博士後期課程生活環境科学専攻情報環境学講座へ

住環境学専攻

安全・安心で、快適に生活することができる美しい住環境をデザインするために、住居内外での生活と住環境との関連を、生活者の視点から研究・教育することを目的とします。

教育理念

人間の日常的な生活環境から地球環境に関わる諸問題を、生活の視点から総合的に捉えて、問題を解決する能力を養います。そして、社会が求めている安全で安心できる住まい、かつ快適で魅力的な住環境という要請に応じて、計画・設計を創造提案し、それらを維持・管理できる高度な専門的知識を備えた人材を育成することを教育理念としています。

求める学生像

- 次のような資質や能力がある学生を求めます。
- ・専門分野に関する基礎知識のある人
- ・住居の内外での生活や住環境のあり方を考える問題意識のある人
- ・さまざまな生活を容れる居住空間や住環境を計画・デザインすることへの強い関心のある人
- ・専門領域において課題・問題を見出し解決する能力のある人
- ・調査・分析、実験、フィールドワークなどを行う研究方法に関する経験や知識のある人
- ・大学院における研究を広く社会に還元する意欲のある人

本専攻では、住宅・生活共同施設・道路・公園緑地などから構成される住環境の空間特性・サービス特性を人間生活に関連づけて研究・教育します。また、その構築・運営・維持管理に関わる構築方法・財政・法的規制などとの関連事項についても教育・研究します。

社会科学的方法を援用する住居論、歴史学的方法と比較文化学的方法を駆使する住環境史論、生活空間計画論、自然科学的方法と心理学的方法を複合させる建築環境論、住環境管理論、物理科学的方法により解析する住居構造防災論、多様な方法を複合的に活用する住環境デザイン論、景観デザイン論などの研究・教育を通じて、住環境の構築と管理運営に関する高度で幅の広い知識と技量を有する専門職、研究職の育成を目指します。

本専攻の修了生の社会への進路としては、建築学・住環境学関連の研究教育分野に加えて、一級および二級建築士、ランドスケープアーキテクト、住宅産業および建築企業の企画・設計スタッフ、インテリアプランナー、建築設計・都市計画コンサルタント、建築・都市計画行政職員、家電設備関連企業等の研究開発員などでの活躍が期待されます。



ネパール・ヒマラヤの民家



寺院建築の耐震調査



修士設計作品



夏季の床冷房の人体影響に関する実験



設計者からの建築デザインレクチャー



都市公園竣工現場の視察



伝統的町屋を活用したプレゼンテーション



住環境設計の草案講評会



文化財の改修現場の見学

さらに研究を続けたい人は ⇒ 博士後期課程生活環境科学専攻住環境学講座へ

生活文化学専攻

私たちの日常生活にあるミクロな問題が、世界のマクロな問題とつながっていることを、文化、歴史、法律、経済、環境、心理、ジェンダーなどのさまざまな視点から研究します。

教育理念

男女共同参画、環境保護、高齢化、少子化など、現代の生活に関わる課題は極めて多様です。本専攻では社会科学と人文科学にまたがる教育カリキュラムを用意し、身近なところから問題を掘り起こす課題発見能力、諸問題の複雑な相互連関まで含めて明らかにする論理的分析力、研究を現実社会への提言に結びつけることのできる応用力をあわせ持った、真に社会に貢献できる人材の育成に努めます。

求める学生像

- ・家庭生活を中心とする人間的スケールから生活環境のあり方を考えるということに、強い興味と関心を持つ学生を求めています。
- ・社会科学、人文科学の分析視角を創造的に融合させることによって、身近な「世界」の中に、新たな認識・知識を発見していくことに対して意欲的な学生を、文系・理系を問わず歓迎します。

生活文化学専攻の特色は、それぞれ独自の専門分野をもつ教員からなる専攻だということです。個々の教員は、それぞれユニークな研究テーマをさまざまな方法や理論を用いて研究しており、その多様性こそがこの専攻の特徴と言えます。そこで、本専攻ではこの独自性をうまく生かすために、複数の教員が指導する体制をとっており、通常一人の学生に主任指導教員1人と、副指導教員があたることになっています。各教員が、どのような研究テーマをどのような理論や方法を用いているかを知るために、それぞれの教員の書いた論文や著書を直接読むことをお勧めします。

人文社会系の学問は、唯一の正解を求めるものではなく、新しいものの見方や批判的視点を提示し、研究者のオリジナリティーを出すことに意義があります。新進の研究者が、生活文化学専攻で斬新な研究を行い、新たな研究分野を切り開くと同時に、社会を変える力になることを期待します。



NHKの取材をうける大学院生



女性農業者に聞き取り調査をする大学院生



北海道調査で石臼体験



修論発表会



アートイベント

修了生の進路について

修了生の進路としては、国家・地方公務員などの行政領域(一般行政職、教員、家裁調査官等)、地域団体での女性リーダー、各種企業の企画・消費者・福祉部門、シンクタンクなどへの進出が期待されます。後期課程に進学して大学・短大・研究所などの教員や研究者を目指す人も多数います。

さらに研究を続けたい人は ⇒ 博士後期課程生活環境科学専攻生活文化学講座へ

数物科学専攻

数学と物理学が連携して教育・研究を行い、さまざまな自然現象や社会現象の中に潜む原理や現象の間に共通な普遍的法則を見出すことで、数学的、物理学的思考方法や知識を習得する専攻です。

教育理念

数物科学専攻は、社会のグローバル化、価値観の多様化、予測不能な自然・社会現象に対応できる広い視野と多様な価値観を持ち、高い水準の数学と物理学の専門知識を備えるとともに、その知識を社会の中で自らが置かれた立場に応じて継承し発展させることができる人材を育成することを目的としています。

この目的に沿って、数物科学専攻には、数学コース、物理学コースおよび数物連携コースの三つのコースを設けています。数学コースでは自然科学の知識と応用を背景に、高度な数学的思考力を涵養し、諸現象の中に潜む数学的構造を究明し、合理的に問題を解決できる人材を、物理学コースでは、宇宙から極微の世界にわたる様々な自然現象を理解するための知識と物理的思考法に加え、最先端の研究に関わる計算・計測技術を活用し、現代の高度化した科学技術の幅広い分野で活躍できる人材を、数物連携コースでは、高度な数学、物理学、情報科学の連携教育を行なうことで、幅広い問題解決力を有した人材を育成することを目指します。

求める学生像

左記の教育理念に基づき、下記のような素養・意欲を持つ学生を求めます。

- ・数学や物理学に興味を抱き、その内容を深く学びたいと希望する学生
- ・数学や物理学の学習を通じて得られた知識、技術や方法論を用いて、将来社会において広く活躍する意欲のある学生
- ・さまざまな自然現象や社会現象の中に隠れている原理について強い好奇心を持ち、それに対して理論的あるいは実験的につきつめて明らかにしようとする探究心を持つ学生

数物科学専攻を希望する学生は、学部で履修する数学や物理学の基礎をしっかりと身につけていることが必要です。それとともに、自然科学全般の基礎的素養とグローバルに活躍するために必須な語学力が必要です。

数学コース

種々の対象には豊かな数学的構造が存在します。数学的構造とは、自然数などの整数構造、演算などの代数構造、対象の図形的把握に不可欠な位相構造・幾何構造・複素構造などをいいます。それらが相互にどのように関連しているかを研究し、それによって対象の構造の全体を把握することを一つの目的としています。最近では、各構造についての研究の深化だけでなく、構造の間の大きな統合がなされつつあります。従来の枠にとらわれない有機的な統合の上に新しい知識を得ることを目指しています。

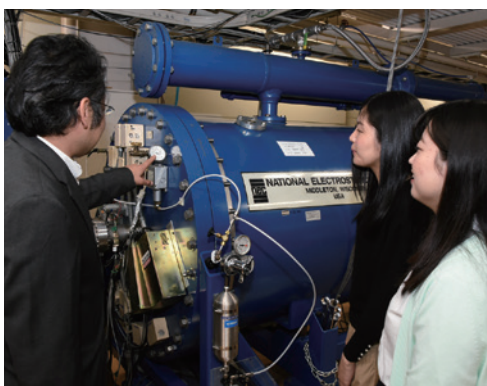
また、種々の現象に内在する動的なものに注視し、微分積分学を基にして、その動きを研究することも目的としています。現象に対する理解を深めるため、現象の新たなモデル化を行い、俯瞰的な見地から種々の現象を認識することに努めています。このような総合的な研究を可能にするため、従来の偏微分方程式論、確率論、フーリエ解析の研究に加え、非線形現象・大域現象の解析などの新たな方向性も取り込み、現象解析の一層の深化を図り、豊かな発展を目指しています。



数学コースでのゼミ風景

物理学コース

物理学の対象は、宇宙から原子核や素粒子のように目に見えないミクロな世界までの広い範囲にわたります。物質の基本的・究極的なミクロ構造の解明とそこに働く相互作用や法則とその体系化、中間に属するメゾスコピック系やナノ系の物理現象、マクロな系である物質の諸性質に関する教育研究を行っています。いずれも、理論・実験の両分野が協力して、自然の不思議に対する好奇心と、その解明を目指す強い探究心を育み、関連する技能の修得を合わせて、個性ある優れた研究の創出と、高度専門女性職業人の輩出を目指しています。



ベレトロン（放射線研究室の実験装置）の使用方法の説明を受けている院生



研究室でのゼミの様子

数物連携コース

数学と物理学は、それ自身に内在した学問的興味に従って進化してきましたが、歴史的には互いに緊密に結びついて発展してきました。例えば、17世紀、デカルトの解析幾何学とガリレオによる運動の記述、さらにそれらの延長線上にあるニュートンとライブニッツによる微分積分学の発見およびニュートンによる古典力学の建設などです。このように、数学と物理学は互いにつながりつつ、それぞれ新たな分野を生み出し拡大してきました。本コースでは、このような両学問の関係を意識し教育研究を進めていきます。



数物連携コースにおける授業風景



数物連携コースにおける授業風景

さらに研究を続けたい人は ⇒ 博士後期課程自然科学専攻数物科学講座へ

化学生物環境学専攻

化学生物環境学専攻では、化学コース、生物科学コース、環境科学コースが連携し、専門的な教育と研究の実践を通して、自然科学に関する専門的知識や技能とともに幅広い視点や高いコミュニケーション能力を身につけ、自然科学関連の幅広い分野で研究者や高度専門職業人としてグローバルな活躍ができる人材の育成を目指しています。

教育理念

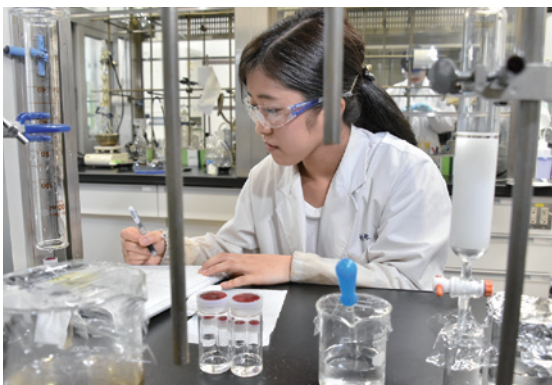
化学生物環境学専攻では、化学、生物、環境科学の学問領域が連携した研究・教育活動を推進し、物質や生物およびそれらを取り巻く自然環境を総合的にとらえることができる広い視野と正しい倫理観、正確な知識、論理的思考能力をもち、自発的かつ協調的に問題の発掘と解決に取り組むことのできる理系女性人材の育成を目指します。

求める学生像

化学生物環境学専攻では、自然科学全般に興味を持ち、所属するコースで高度に専門的で実践的な研究教育を通して専門知識を修得し、自ら問題点を発掘して思考し解決する能力を身につけ、将来は社会において広く活躍する意欲のある学生の入学を求めます。そのためには、大学の学部において数学や自然科学、あるいは工学や農学など理系の基礎および専門知識を修得していること、実験や実習、演習、卒業研究やセミナーなどを通して問題発掘とその解決に向けた取り組みについて経験を積んでいることが必要です。最先端の科学を研究する上で英語は必要不可欠ですので、英語について十分な能力を備えていることを望みます。また、論理的な日本語で表現するためのコミュニケーション能力も必要です。

化学コース

21世紀の化学の先端分野では専門化および高度化が著しく、並大抵なことではキャッチアップできません。このような状況にあって、大学院修士レベルで自らの周囲の専門化された狭い範囲に限定された知識を持つだけでは、実社会に出てから科学技術のいろいろな分野での自らの発展には十分とはいえません。そこで化学コースでは、現代化学の専門性・高度性を念頭に置き、化学各分野を網羅したカリキュラムを設定し、大学院生の興味を喚起しつつ十分に理解可能なロジックを駆使することによって、高度な現代化学を平明に説き起こすことによって大学院生自身のものとなる基盤的な知識や思考力を培うことを目指しています。さらに、並行して化学コース各専門分野での先端的な学術研究に能動的に日常的に参画し、その経験を通じて「仕事」の能力・適応力を育み、また化学および関連科学技術分野で将来専門的な研究開発等の職業活動が可能になるような専門的なスキルを養い柔軟な応用力を育成します。これら知識基盤の確立と研究活動への参画の両方によって、各分野に応用可能な力を総合的に伸長させます。



化学コースには、「物理化学分野」「有機化学分野」「無機化学分野」の3つの教育研究分野があります。

物理化学分野

分子や分子集合体・構造を電子・原子・分子の視点から解明しようとしています。

有機化学分野

持続可能な社会の構築を目指して、新しい有機分子の合成やその物性の解明、および、新しい有機合成反応の開発を行っています。

無機化学分野

私たちの未来に関する諸問題に金属錯体をキーマテリアルとして挑戦しています。



生物科学コース

生物科学は、近年もなお劇的に発展を遂げつつある学問分野のひとつです。また、バイオテクノロジーの利用や生命倫理など生物科学に深く関連する問題について市民社会が判断を迫られる場面も近年ますます増えてきています。生物科学コースでは、さまざまな生物が織りなす生命現象の共通性と多様性を、分子から生態系に至る多層的なレベルで捉える研究の実践と専門教育を通じて、科学的知識や論理的思考法を身につけ、社会で能動的に活躍できる人材を育成することを目指しています。

生物科学コースで学び、研究するためには、生物科学に関する基本的な知識はもちろん、一定の英文読解能力やコミュニケーション能力をもっていることが必要です。そして何よりも、生き物の様々な姿やはたらき、生命の謎を明らかにしたいという強い欲求と情熱をもっていることが重要です。

生物科学コースは、分子細胞生物学分野、個体機能生物学分野、生態学分野の三つの教育研究分野から構成されており、各分野にはそれぞれ複数の教員が所属しています。

分子細胞生物学分野

生体膜の構造と機能、菌類の染色体構造、原生動物の細胞間相互作用、藻類における形態形成運動や多細胞化のしくみ、光合成生物のレドックス応答と生理機能の調節に関する研究などを題材に、生命現象を分子・細胞レベルで解析する研究・教育を行います。

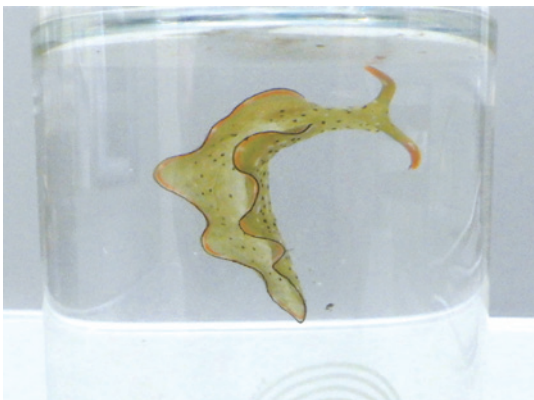
個体機能生物学分野

動物の光受容・神経発生・脳組織形成・行動生理、高等植物の環境応答や組織・器官形成などを題材に、動物や植物など多細胞生物の、個体レベルでの構造や機能に注目した研究・教育を行います。

生態学分野

水生動物の生態と行動、生物多様性の維持機構や保全、顕花植物の繁殖生態とその進化、などを題材に、生態系レベルでの生命現象に注目した研究・教育を行います。

以上のようにそれぞれは個性的な研究を実践している教員間、研究分野間、さらにはコース間での連携と相互補完によって、生物科学コースにおける教育と研究は、全体として個性豊かで高度な専門性と普遍性・学際性の両立を実現しています。



ウミウシ

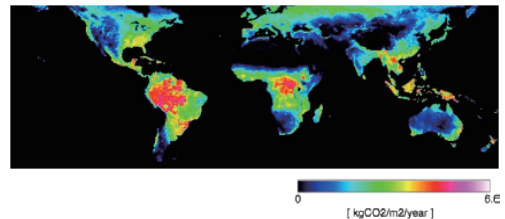
環境科学コース

現在の地球環境は、文明の発達に伴う人類の過度な活動によって、様々な問題に直面しています。それらの問題を理解し、解決するためには高度な専門知識だけでなく、俯瞰的に物事を分析できる幅広い教養が求められます。環境科学コースは、化学生物環境学専攻の3つのコースの一つとして高度な専門教育を行うとともに、分野横断的な学際的研究を推進します。

コースには「地球環境科学分野」「数理生命システム分野」「生物環境学分野」「環境化学分野」の4つの研究分野があります。

地球環境科学分野

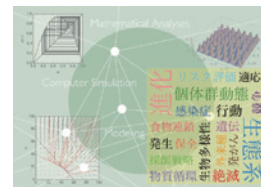
衛星からリモートセンシングで観測される地球観測データを分析することによって、地球環境の諸変動の過程を解明します。



衛星データによる純一次生産量の推定結果

数理生命システム分野

マイクロ系からマクロ系に至る環境と生命現象に関する数理的研究を行います。



数理生命システム分野概念図

生物環境学分野

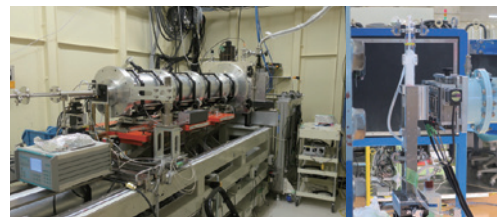
生物と環境との相互作用について深く研究し、地球温暖化・化学汚染・保全といった環境問題に対して生物学的観点から取り組みます。



高山植物のお花畑

環境化学分野

幅広い化学の基礎の上に、最先端の手法を用いて、環境を形成する化学物質の存在状態や性質・環境への影響などを明らかにします。



さらに研究を続けたい人は ⇒ 博士後期課程自然科学専攻化学生物環境学講座へ

工学専攻(修士課程)

2026年度より人間文化総合科学研究科 修士課程に『工学専攻』を新設します。本専攻は、2022年4月に開設した工学部に連なる大学院教育の組織として、「複数の分野を自身の専門性から融合してイノベーションを行う人材の育成」という基本理念に基づいて、分野横断的な知識に基づいて融合と協創を行える工学系女性人材を育成します。

教育理念

本専攻では、人と自然が調和した豊かな社会を実現するために、高度な専門能力、ならびに異分野への理解力と高い倫理感を兼ね備えつつ、時代の流れに即した科学技術の発展に資する人材の育成を目指します。

人材育成の方針

「複数の分野を自身の専門性から融合してイノベーションを行う人材の育成」という基本理念に基づいて、分野横断的な知識に基づいて融合と協創を行える工学系女性人材を育成します。

具体的には、次の3つの能力「主体性」「専門性」「社会性」を身につけた人材を育成します。本専攻では、明確な問題意識に基づいて課題を設定し、その課題に主体的・積極的に取り組む意欲が求められます。

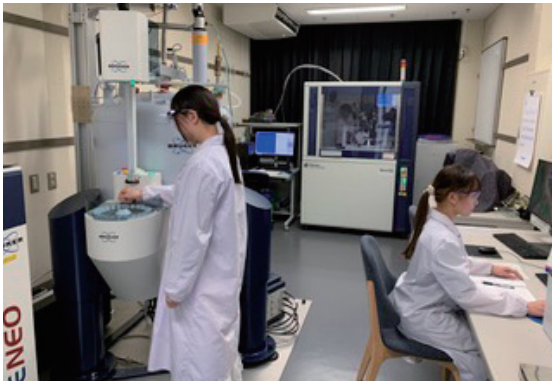
求める学生像

この理念に基づき、工学専攻のディプロマ・ポリシーである「主体性、専門性、社会性」をそれぞれさらに細分化した学修成果を修得するためのカリキュラム・ポリシーに基づいて配置する科目を履修できる能力を備えた、次のような入学者を求めます。

- ・工学専攻が掲げる理念に共感し、これを実現しようとする意欲を有する人
- ・専門分野において課題を設定、解決するのに必要な基礎知識を有し、それを踏まえた論理的思考力を有する人
- ・自分の専門分野のみにとらわれず、異分野の理解に努め、互いに協力して科学技術の発展に取り組む意欲に満ちた人
- ・自らが国際社会の一員であることの自覚を持つ人

研究の概要

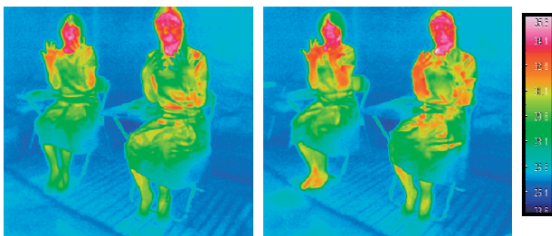
修士課程工学専攻は、工学部と同様に【人間情報分野】と【環境デザイン分野】の2つの分野で教育研究プログラムがあります。研究内容は学部同様に4つのエリアで特色のある研究を実施しています。



<核磁気共鳴装置を用いた有機化合物の構造決定>
材料工学エリアは、有機化学、無機化学、物理化学、高分子工学の観点から、分子レベルや原子レベルで工業製品の基盤になる材料を研究しています。



<ヒトに関わる情報の計測と処理の技術を学ぶ演習>
情報エリアは、センシング、ヒューマンインタフェース、情報処理などの観点から、人間を取り巻く情報やシステムに関する様々な情報工学技術の研究と開発を行っています。



冷え対策なし

冷え対策あり

<冷え対策による皮膚温分布の違い>
人間環境エリアは、人間と周囲に広がる環境の関係性に注目して、社会・文化環境、情報環境を含めて、より豊かで快適な空間や価値を創造する環境の工学的デザイン手法について研究しています。



<心臓および血管画像装置による心血管機能評価方法の探索>
生体医工学エリアでは、身体内外から発信される生体情報を解析することで、呼吸循環、脳機能、認知科学、生体力学などの様々な生体調節メカニズムを研究しています。

女性リーダーとして、社会に翔び立つ日に向けて—

大学院・博士後期課程で、磨く。

1. 人間文化総合科学研究科・博士後期課程の目的

■人間文化総合科学研究科・博士後期課程の目的

人間文化総合科学研究科・博士後期課程は、研究者として自立して研究活動を行い、またはその他の高度に専門的な業務に従事するために必要な研究能力およびその基礎となる豊かな学識を備えた人材を養成することを目的とします。

2. 人間文化総合科学研究科・博士後期課程の各専攻・講座の教育研究内容

学部	人間文化総合科学研究科	博士前期課程	博士後期課程
文学部	人文社会学科	人文社会学専攻	人文科学専攻 比較文化学講座 社会人間学講座
	言語文化学科	言語文化学専攻	
	人間科学科	人間科学専攻	
生活環境学部	食物栄養学科	食物栄養学専攻	生活環境科学専攻 食物栄養学講座 心身健康学講座 情報環境学講座 住環境学講座 生活文化学講座
	心身健康学科	心身健康学専攻	
	情報環境学専攻	情報環境学専攻	
	住環境学科	住環境学専攻	
	文化情報学科	生活文化学専攻	
	文化情報学科	生活文化学専攻	
理学部	数物科学科	数物科学専攻	自然科学専攻 数物科学講座 化学生物環境学講座
	化学生物環境学科	化学生物環境学専攻	
		生活工学共同専攻	博士後期課程 材料科学、機能・分子デザイン学、人間情報学、生体医工学、建築環境学の専門分野を横断したコラボレーションによる教育を行います。



開講授業科目 <https://www.nara-wu.ac.jp/nwu/education/syllabussearch/>

専攻の概要

【博士後期課程】

人文科学専攻

本専攻は、歴史学、言語学、文学、社会学、地理学、心理学、教育学、哲学などの多様な人文系の学問分野から構成されています。これらの高度な専門教育を通して、固有の学問領域の研究を深化させるとともに、これまで分化の方向に発展してきた諸科学を統合する知見、すなわち「諸科学の人的意味づけ」を追求します。

教育理念

人文科学専攻は、歴史学、言語学、文学、社会学、地理学、心理学、教育学、哲学など人文科学系の学問分野における高度な専門知識と判断力を身に付けて新たな領域を開拓し、社会における様々な問題を解決する能力を備えた人材を養成します。

比較文化学講座は、社会事象——言語認識、西欧世界——アジア世界という二つの基軸を立て、歴史学、文学、言語学などの文化に関わる多様な学問分野からこれを比較研究することを目指しています。高度な専門知識と判断力を身に付けて新たな領域を開拓し、社会における様々な問題を解決する能力を備えた人材を養成します。

社会人間学講座は、社会、文化、地理環境、人間行動、心理、教育などの分野に関する高度な専門知識を備え、論理的思考力と規範的判断力によって、主体的かつ協働的に社会の課題解決や福利実現や価値創造に向かう、独創的な研究能力と実践的構想力と行動力を身につけることを目指しています。

各分野の観点を軸にして、環境、社会、文化における人間行動を統合的に探究し、よりよい社会のあり方と生き方の構築に貢献する能力を備えた人材を養成します。



比較文化学講座

本講座においては、高度な知識を身につけ、研究能力を培うために、日本、中国、イギリス、アメリカ、ドイツ、フランスなど各地域の歴史、言語、文学に関する専門科目の授業は基本的に演習形式で行い、また必要に応じて調査やフィールドワークも採り入れています。外国研究では、当該地域の言語を用いた教育も行っています。また、歴史都市「奈良」についての学びを深めるため、国立文化財機構奈良文化財研究所や奈良国立博物館、宮内庁正倉院事務所から客員教員を迎えて、特色ある授業を開講しています。



遺跡出土微細遺物の調査風景（研究室にて）

求める学生像

- ・大学院での研究をもとにして、社会に貢献する意欲と熱意をもつ人
- ・人間の営みとしての文化現象を、情報の観点から分析し研究することに関心をもつ人
- ・ジェンダー・文化振興などの分野での専門的リーダーとして活躍しようとしている人
- ・インクルーシブな社会の実現あるいは文化や産業の振興において、教育・研究機関の研究者、または、行政、地域再生、社会福祉事業、NPO、NGOなどの高度専門職におけるリーダーとして活躍しようとしている人
- ・文献や資料の読解から、実験や調査、研究発表を含む研究活動において、必要な外国語能力を有している人
- ・国際的、特にアジア地域の発展に貢献しようとしている留学生、社会人

大学院の博士後期課程においてこのような志を実現するためには、前提として博士前期課程において修士論文またはそれに相当する学術論文の作成を通じて、上記にある分野の先端的研究に必要な専門知識、問題意識、資質・能力・活用力（思考力、判断力、表現力）、多様性において対話または協働する主体的な姿勢・態度、研究に必要な外国語能力を身につけていることが必要です。

社会人間学講座

本講座は、社会、文化、地理環境、人間行動、教育などに関する総合的で高度な理論と方法論を習得するために、各専門分野に応じた演習形式中心の授業を開講しています。持続可能な社会の構築に貢献する研究のための調査・分析方法の習得やフィールドワークの実践、さまざまな環境における人間行動や心身の在り方を問う研究のための文献・資料の読解や方法論の確立など、社会と人間に関わる多様な授業を展開しています。



茶生産農家の調査（京都府和束町にて）

自然科学専攻

本専攻は、数学、物理学、化学、生物科学、環境科学の5つの研究分野から構成されています。これらはいずれも自然科学の基礎的分野であり、ミクロからマクロまでの様々な階層にわたる複雑多様な自然現象を、様々なアプローチを用いて解析し、その本質を原理的かつ総合的に理解することを目的として発達してきた学問分野です。皆さんは、本専攻においてそれぞれの分野の先端的な教育を受け、自らも研究を進めることにより、その分野の高度な知識を身につけるとともに、新たな研究課題に挑戦し、これまで明らかになっていなかったことを明らかにし、科学の進歩に貢献するという経験をすることになります。

教育理念

自然科学専攻では、自然科学の基盤的学問である数学、物理学、化学、生物科学、環境科学の高度な教育・研究を通して、専門分野に関する高度な知識を基盤に、自ら考え行動することができ、かつ、日々発展している学際的・融合的分野の開拓を進めることができる人材の育成を目指します。その実現のために、専攻に、数学と物理学の教員が協力して教育・研究にあたる数物科学講座と、化学、生物科学、および環境科学の教員が協力して教育・研究にあたる化学生物環境学講座を設けています。

数物科学講座は、数学や物理学の視点から諸現象の理解を進め、その応用に向けた複合的なアプローチについて考える学術研究活動を展開します。そうした経験を通じて、21世紀の高度情報化社会を支える科学技術の発展のために、新たな課題を自ら発見し、自ら解決する能力を持った人材の育成を目指します。

化学生物環境学講座は、化学、生物科学、環境科学の学問領域が連携した学術研究活動を展開し、先端的な学問体系の進化に寄与します。そうした経験を通じて、物質や生物、およびそれらを取り巻く自然環境に関する正しい知識と、それらを総合的にとらえることができる広い視野をもち、論理的な思考能力と正しい研究倫理観を備え、自ら立案した研究課題を独自の視点で解決することのできる理系女性人材の育成を目指します。

数物科学講座

数物科学講座においては、基礎科学的視点と応用科学的視点が高く関わる自然現象、あるいは人間と自然や社会が関わる新しいタイプの現象を対象として、諸現象の中に潜む法則や原理の発見、論理構造の解明、さらには未知の現象の予測を行うといった、数理的方法を用いた教育研究を行います。現代の高度情報社会を支えるべく科学技術が発展していくためには、新たな技術革新が不可欠と考えられます。そのためには諸現象の理解や応用への複合的なアプローチについて教育研究を行うことが必要となります。このような視点に基づき本講座では、数学と物理学が連携した高度、かつ最先端の教育・研究を通じて、基礎科学としての数学と物理学の高い水準の専門的知識と技能を備えるとともに、広い視野と深い専門知識を基盤にして諸現象を理解し課題を解決する能力と、現代社会の中で活躍できる力を身につけた人材の育成を目指します。



実験データ解析中の風景

求める学生像

自然科学専攻では、次のような学生を求めます。

- ・自然科学全般に興味を持ち、高度に専門的で実践的な学術研究において独創性の高い研究を行うことを志す人
- ・数学、物理学、化学、生物科学、環境科学に関する専門的知識と技能、経験を活かし、大学や独立行政法人研究機関、企業の研究所などにおいて研究や開発に従事することを志す人
- ・数学、物理学、化学、生物科学、環境科学などの基礎科学の素養と自らの研究経験に基づき、学生・生徒が複合的／発展的に考える力を育てることのできるようなく高度な指導能力を備えた教育者を志す人
- ・自ら新たな問題を発掘しそれを基礎科学的観点から解決しようとする意思と能力を備えた社会人となることを志す人

化学生物環境学講座

本講座は、分子レベルで繰り広げられる化学物質の反応・物性・機能性、あるいは生体分子や遺伝子の振る舞いといったミクロな事象から、生物の器官や組織、生物個体とその集団が示す構造と機能などのややマクロな事象、更にはそうした生物の活動が展開されている地球環境の過去から現在への変化などグローバルな事象まで、時間的、空間的に幅広い範囲におよぶ、自然界の事象を対象とした研究と教育を行います。化学コースでは分子を基盤とする新たな反応場や機能の開発、ミクロな世界での状態変化のダイナミクス、あるいは化学反応や合成による物質変換などについて理論・実験の両面から教育研究を行います。生物科学コースでは生体分子、細胞、組織、生物個体やその集団が示すさまざまな生物現象と、生物間や生物-非生物間の相互作用についての解明を目指した教育研究を行います。環境科学コースでは、人工衛星データなどを用いたグローバルの地球環境変動や、生物集団の構造・進化と物理化学的環境との関わりに関する、数理的手法による理解を目指した教育研究を行います。

3つのコースが連携して展開される教育研究により物質、生物、地球環境の調和の取れた発展に向けて、高度な知識を身につけ、社会に貢献できる人材を養成することが、本講座における目標です。



グローブボックス中での合成実験の様子

生活環境科学専攻

本専攻は、生活環境学部および博士前期課程生活環境科学系各専攻を基盤とする、食物栄養学講座・心身健康学講座・情報環境学講座・住環境学講座・生活文化学講座の五講座によって構成される、総合系複合領域です。生活に根ざした理論と実践の総合的学知を提供することを通じて、幅広い知識と高度な研究能力・技術を持ち、かつ女性リーダーとしての資質に富んだ、高度専門職業人を養成します。

教育理念

生活環境学は理論と共に実践を重視する総合的学知である点に大きな特性があり、研究を通じて人々のよりよい生活の実現に寄与することをめざしています。生活環境学専攻では、私たちの生活のなかに課題を発見する力、その課題を広い視野から多角的に探求し、体系化していく論理的思考力、そして研究成果を現実社会に還元していく実践力を涵養する教育を行っています。私たちはこのような教育を通じて、高度な研究能力・知識・技術を持つだけでなく、様々な場所でリーダーシップを発揮できる、真の高度専門職業人を育成します。

求める学生像

- ・ 個々の学問領域の基礎となる専門知識を有する人
- ・ 生活における諸問題を学際的に深く探求しようとする人
- ・ 既成の学知の再構築や、新しい研究課題の開拓に意欲を持つ人
- ・ 女性リーダーとしての豊かな資質をもつ高度専門職業人となって社会貢献することをめざす人
- ・ 国際社会に貢献することをめざす人

食物栄養学講座

わが国では、急速な高齢化を経て、生活習慣病や認知症及び要介護状態等になる者の増加等が深刻な社会問題となっています。進展する高齢化と疾病構造の変化の中で、社会保障制度の持続可能性を高めるためには、生活習慣病等の予防に重点を置いて健康寿命の延伸等を図ることが極めて重要です。これら食物栄養に関する諸課題の解決のためには高度な専門性と豊かな学識が必要とされており、健康寿命の延伸に食物栄養学の果たすべき役割は重大です。

本講座では、健全で快適な食生活の創造及び現代の食に関する多様な問題の解決を目的として、食物の栄養性・機能性・安全性・調理加工性やヒトの代謝・免疫機構と関連した研究・教育を行います。また、疾病予防の領域において、医学、農学、薬学、情報科学、食生活学、社会医学を基盤として、分子・細胞レベルから生体、さらには人の集団を対象とする疫学研究まで、食物栄養学を俯瞰する視点からの研究・教育を行います。これらによって、国内外における食物栄養学領域の研究を先導する女性研究者や、高度専門職業人として当該職域を牽引し社会に貢献する人材を養成します。

心身健康学講座

人々が豊かな生活を営むためには、心身ともに健康であることが基盤となります。このため、心身の健康を担保する生活環境や社会的環境に対するニーズは極めて高くなっています。このような社会的ニーズに応えるためには、心と身体の健康に関する幅広い専門的知識に加えて、科学的視点と総合的人間理解の視点から実践の応用力を身につけ、今日的諸問題の発見および解決に貢献できる研究者及び実践力のある高度な専門人材を養成する必要があります。

本講座は、心身の健康を生活環境や生活習慣の視点から科学的に研究する生活健康科学の領域、身体や運動行動を学際的視点で研究するスポーツ科学の領域、そして、心の成長や課題を科学的視点から研究する臨床心理学の領域から構成されています。多様な分野からのアプローチと本学の特徴である女性の視点を生かした高度な研究により、心身の健康に関する今日的諸問題の発見および解決に貢献できる人材を養成します。



産学連携フェアへの出展



市民参加型公開講座

情報環境学講座

本講座は、素材学や管理学の分野に代表される衣環境学に関する領域と人工知能・コンピュータシステムに代表される情報通信科学に関する領域の2つの領域から構成されています。現在の日本社会が抱える課題の一つである女性技術者・研究者や社会で活躍する女性リーダーの育成という観点からは、従来の理学や工学の基盤を更に強化し、全体の学術的基盤を底上げしながら、理学・工学的な手法で再認識された知識や解決方法を生活者や消費者に効率的に還元することによって、生活環境をより質的に向上させる担い手の育成が期待されています。また、経験に裏付けられた直感や感性に加え、緻密なデータ処理能力やデータ解析能力を身につけた、普遍的真理を追究する研究能力を持つ人材の養成も期待されています。本講座は、このような社会の要請に応えるために教育研究を行います。

衣環境学の領域では、高度な知識を活かした独創性の高い界面化学の基礎研究への動機づけを高め、管理学と関わる洗浄科学、界面化学・物理化学・素材学と関わる繊維構造学、衣環境材料学などの教育研究の場を提供します。生活情報通信科学の領域では、最先端ICTの知識と技術を活かした独立性の高い研究開発への動機づけを高め、コンピュータシステム関連分野における人工知能プロセッサを含むアーキテクチャならびにシステムソフトウェアの教育研究、ソフトウェア工学関連分野におけるプロジェクトマネジメントを中心とした情報システムの設計開発に関わる教育研究、アプリケーション関連分野におけるライフコンピューティングを中核に据えた人工知能や知的エージェントの教育研究、情報基礎関連分野における計算理論に関わる教育研究、などの場を提供します。

住環境学講座

住環境学は、安全・安心・快適な生活を可能とし、自然環境とも共生可能な住環境(生活空間)を総合的に創り上げることを目指した学問体系です。第二次世界大戦後の復興、高度経済成長を経て世界有数の経済大国となった我が国ではありますが、我々の暮らしを支える生活空間は今なお数多くの課題を抱えています。まず広いスケールの問題に目を向けると、地球温暖化に代表される気候変動に伴い発生頻度の増した台風・大雪などの極端気象、並びに将来の発生が危惧される大規模地震等に対応するハード(老朽化インフラの修繕など)、ソフト(災害対応システム整備、地域住民への情報提供・啓発など)両面での対応が求められています。また、視点を国内に移すと、少子高齢化に伴う高齢化・人口減少社会への対応、高度情報化社会の進展への対応、男女共同参画社会の構築、家族形態の多様化への対応など、数多くの課題に直面しています。これらの課題は今後の国内外の情勢、社会の発展、個人の嗜好・ライフスタイルの変化等に従い進展・変容するため、これらを的確に把握し、対応することのできる自発的な市民の育成、並びに社会の形成が求められています。

本講座は、日常生活から地球環境に関わる諸問題を生活者の視点から総合的に捉え、社会が求める安全で安心できる住まい、かつ快適で魅力的な住環境という要請に応え、住宅から都市にいたる多様な環境と人間生活のあるべき関係に配慮した住環境の構築と管理運営に関する幅の広い知識と技能を有する高度専門職業人や研究者を養成します。本講座では、社会科学的方法を援用する住居論をはじめ、政策論、環境工学、構造工学、管理学、デザイン論などの多様な方法を用いた幅広い教育研究を実施します。

生活文化化学講座

2023年の男女格差を指数化した「ジェンダーギャップ指数」のランキングにおいて、日本は146か国中125位で2006年に公表が開始されて以降最低(政治分野では当該調査対象国中最低水準に近い138位)となり、日本社会のジェンダーギャップへの取り組みは依然国際的には功を奏しているとは評価し難い水準であることが浮き彫りになっています。ダイバーシティを推進し女性リーダーの育成をミッションとする本学における生活文化化学講座の役割は、このデータが示すように社会にあまねく存在しつつ現在まで焦点化あるいは可視化されてこなかったような諸課題に取り組むことです。本講座では、私たちの生活のあらゆる側面を、それらと不可分の文化的諸要素との相互的關係に視点をおいて分析するという学術的立場を背景とし、学部および大学院博士前期課程教育で実践してきたカリキュラムを博士後期課程にも反映させることを企図しています。この視点による学部・博士前期課程・博士後期課程の教育プログラムの貫徹によって、イノベティブにグローバル課題を解決する実践的能力を有する女性人材育成という課題に応えることが可能になると確信しています。以上のごとく本講座は生活環境にかかわるあらゆる事象のなかに研究対象を見出すことを特徴としており、発見した問題を人文科学もしくは社会科学諸領域の研究方法で分析します。したがって学問分野は歴史学、家族社会学、社会心理学、法学、経済学、ジェンダー論と多岐にわたるという点にもっとも特徴があります。



連携市町村に赴いての地域貢献事業

生活工学共同専攻 (博士後期課程)

生活工学共同専攻は奈良女子大学とお茶の水女子大学が共同して大学院博士後期課程の教育研究を行う専攻です。このため、生活工学共同専攻の学生はお茶の水女子大学の施設（図書館等）をその大学の学生と同様に使用することができます。

博士後期課程

教育理念

本専攻では、安全・安心で豊かな未来の社会・生活を創造すべく、人間生活における諸課題を柔軟に捉え、生活に根ざした生活者の視点を工学手法に融合させることで研究を展開できる能力を有する女性人材の育成を目的とします。とくに、自立的に研究を展開でき、かつ、指導的役割を担い得る人材育成を目指します。

そのために、生活に関連する諸課題を生活者の視点に立ち、工学諸分野の基礎から応用まで幅広く学ぶことで、新たな分野である生活工学を創出し、高度な学術的発展を目指した教育研究を展開します。

求める学生像

- ・人間と生活環境に関わる現実的諸課題に強い関心を有し、生活工学的観点をもって解決に取り組む意欲・能力を有する人
- ・研究に求められる基礎能力と強い意欲をもって研究者・高度技術者を目指す人
- ・社会人としての基盤を保ちつつ、より高度な専門能力の開発を目指す人
- ・上記に必要な修士相当の学力、ならびに、理工学系諸科目の学力を有する人
- ・研究成果の学術的発展を通じて社会貢献する高い志を有する人

■ 想定される進路

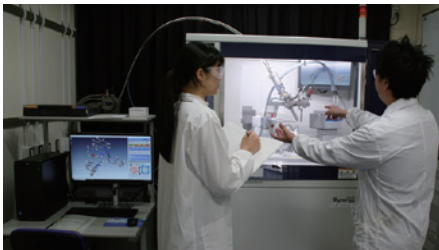
想定される進路としては、研究機関や企業の中核的研究者・グローバルリーダー、大学教員などです。

生活工学共同専攻のカリキュラムの特徴

分野を超えたコラボレーションによって、総合的に解決の方策を見いだす研究者・技術者の育成を目指し、本専攻のカリキュラムは、基礎科目群、専門科目群、専門応用科目群で構成されます。基礎科目群では、生活工学の基盤となる理工系での基礎を修得しつつ、倫理・知財について学びます。専門科目群は各教員の専門分野に関連する科目群です。専門応用科目群は、諸分野のコラボレーション科目で、生活関連課題の工学的解決のための手法を修得します。これらの学修を踏まえ、教員指導のもと博士論文を作成します。

共同専攻の特徴

- ・奈良女子大学から主指導教員と副指導教員（1名以上）、お茶の水女子大学から副指導教員（1名以上）が選ばれます。主指導教員と副指導教員が協力して研究・履修指導を行います。
- ・博士後期課程では、所定の単位を20単位以上修得することを修了要件とします。
- ・長期休業期間の集中講義や双方向TV講義システムを活用した講義、宿舍の優先提供などにより、お茶の水女子大学の授業の履修を支援します。



X線結晶構造解析装置を用いた分子構造の解明



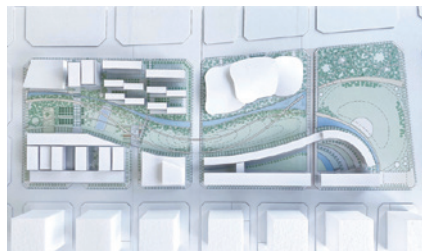
電子工作やデータ分析などの要素技術を学ぶ演習



グローブボックスを用いたリチウムイオン二次電池評価セルの構築



生体工学エリアの実験室/モーションキャプチャシステム



IT企業のキャンパス計画

教員の研究領域

以下の本学ホームページよりご確認ください。スマートフォンの場合はQRコードからもご確認くださいませ。
 なお、年度途中で変更が生じた場合も以下ホームページでお知らせいたします。
 大学院人間文化総合科学研究科ホームページ（専攻構成・担当教員・開講科目）
<https://www.nara-wu.ac.jp/daigakuin/senkou/c00.html>



1 取得できる学位及び資格

本学大学院を修了した場合には、専攻に応じ次のとおり学位を取得できます。

【博士前期課程】

専攻	学位名	学位に付記する専攻分野の名称
人文社会学専攻	修士	文学又は学術
言語文化学専攻		
人間科学専攻		
食物栄養学専攻		生活環境学、学術又は家政学
心身健康学専攻		
情報環境学専攻		
住環境学専攻		
生活文化学専攻		理学又は学術
数物科学専攻		
化学生物環境学専攻		
工学専攻（修士課程）		工学又は学術

【博士後期課程】

専攻	学位名	学位に付記する専攻分野の名称
人文科学専攻	博士	文学、社会科学又は学術
生活環境科学専攻		生活環境学、社会科学、情報科学、理学又は学術
自然科学専攻		理学又は学術
生活工学共同専攻		工学、生活工学又は学術

博士前期課程については、専攻に応じて次の教員免許状等の所要資格を取得することができます。

ただし、教員免許状（専修免許状）取得には、当該教科等の一種免許状を既に取得している又は取得要件を満たしている必要があります。

専攻	専修免許状					その他
	高等学校教諭	中学校教諭	小学校教諭	幼稚園教諭	栄養教諭	
人文社会学専攻	地理歴史、公民	社会				
言語文化学専攻	国語、英語	国語、英語				
人間科学専攻			○	○		
食物栄養学専攻	家庭	家庭			○	
心身健康学専攻	家庭、保健体育	家庭、保健体育				
情報環境学専攻	情報					
住環境学専攻	家庭	家庭				
生活文化学専攻	家庭	家庭				
数物科学専攻	数学、理科	数学、理科				
化学生物環境学専攻	理科	理科				

2 単位互換制度

本学大学院は次に示す大学院と単位互換協定を締結しています。

これらの大学院の研究科で修得した単位は、博士前期課程にあつては10単位、博士後期課程にあつては4単位をそれぞれ超えない範囲で、本学大学院において履修したものとして認定することができます。

大学院名	研究科名
お茶の水女子大学大学院*	人間文化創成科学研究科
奈良先端科学技術大学院大学	先端科学技術研究科
奈良教育大学大学院	教育学研究科
神戸大学大学院*	人文学研究科
大阪大学大学院	理学研究科
京都大学大学院	文学研究科、人間・環境学研究科
奈良大学大学院	文学研究科、社会学研究科
帝塚山大学大学院	人文科学研究科、経済学研究科、法政策研究科

*博士後期課程は、お茶の水女子大学大学院と神戸大学大学院の2大学になります。

また、留学先大学への授業料等を不徴収とする学生交流協定大学への交換留学制度もあります。

ただし、本学への授業料の納付は必要となります。

留学先で取得した単位は本学が認定すれば、本学の単位として互換することができます。また、この留学期間は本学における在学期間として認められます。 URL:<https://www.nara-ni.ac.jp/isc/agreements/>

3 長期履修学生制度

本学大学院では、平成16年4月から「長期履修学生制度」を導入しています。

この制度は、職業を有している、あるいは育児、長期介護、病気等のために一般の学生に比べて研究活動・学習活動への時間数が限られるため、標準の修業年限(博士前期課程は2年、博士後期課程は3年)で修了することが困難な学生を対象に、事情に応じて長期の在学期間(博士前期課程は最長4年、博士後期課程は最長6年)を計画的に設定して履修することができる制度です。

長期履修学生として認められた場合の授業料は、標準の修業年限に支払うべき授業料総額を、あらかじめ認められた修業年限で除した額をそれぞれの年(学期)に支払うこととなります。

【授業料の納入例(令和8年度入学の場合)】

区 分		1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	合 計	
博士前期課程	標準の修業年限(2年)の場合	年間	535,800	535,800				1,071,600	
		半期分	267,900	267,900					
	2年6月の場合	年間	428,640	428,640	214,320			1,071,600	
		半期分	214,320	214,320					
	3年の場合	年間	357,200	357,200	357,200			1,071,600	
		半期分	178,600	178,600	178,600				
	3年6月の場合	年間	306,180	306,180	306,180	153,090		1,071,630	
		半期分	153,090	153,090	153,090				
	4年の場合	年間	267,900	267,900	267,900	267,900		1,071,600	
		半期分	133,950	133,950	133,950	133,950			
博士後期課程	標準の修業年限(3年)の場合	年間	535,800	535,800	535,800			1,607,400	
		半期分	267,900	267,900	267,900				
	3年6月の場合	年間	459,260	459,260	459,260	229,630		1,607,410	
		半期分	229,630	229,630	229,630				
	4年の場合	年間	401,850	401,850	401,850	401,850		1,607,400	
		半期分	200,925	200,925	200,925	200,925			
	4年6月の場合	年間	357,200	357,200	357,200	357,200	178,600	1,607,400	
		半期分	178,600	178,600	178,600	178,600			
	5年の場合	年間	321,480	321,480	321,480	321,480	321,480	1,607,400	
		半期分	160,740	160,740	160,740	160,740	160,740		
	5年6月の場合	年間	292,260	292,260	292,260	292,260	292,260	146,130	1,607,430
		半期分	146,130	146,130	146,130	146,130	146,130		
6年の場合	年間	267,900	267,900	267,900	267,900	267,900	267,900	1,607,400	
	半期分	133,950	133,950	133,950	133,950	133,950	133,950		

また、新入生だけでなく、在学中に条件が変化した在学学生も収容定員内の範囲で長期履修コースに申請することができます。ただし、在学中に長期履修学生として認められた場合は、認められた履修期間により算出された授業料を許可された翌年度から支払うこととなります。

【在学中に長期履修学生として認められた場合の納入例】

区 分		1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	合 計
博士前期課程	1回生在在学中に4年の長期履修を認められた場合	年間	535,800	267,900	267,900	267,900		1,339,500
		半期分	267,900	133,950	133,950	133,950		

※上記授業料の金額は、令和8年度授業料の金額に基づき計算しており、授業料の改定があった場合には、改定時から改定後の授業料が適用されます。

4 再チャレンジ型女性研究者支援制度(博士後期課程)

再チャレンジ型女性研究者支援制度とは、博士後期課程中途退学者向けの課程博士取得促進プログラムです。博士号未取得者のうち、本学又は他大学の大学院博士後期課程に休学期間を除き1年(長期履修学生の場合は1年相当期間)以上在学し、ライフイベント等(結婚、出産、子育て、親族の介護・死亡、就職・転職、病気等)により退学した者を対象として、課程博士の取得を促進する制度(「再チャレンジ型女性研究者支援制度」)を平成31年度入学者から導入しました。

再チャレンジ型女性研究者支援制度により入学する者からは、入学料を徴収しません。また、入学前の既修得単位の認定も行います(上限は10単位)。なお、従来の学生と同様に、長期履修学生制度や教育方法の特例制度も、申請することが出来ます。 <https://www.nara-wu.ac.jp/nyusi/challenge.html>

5 博士前期課程修了者博士号取得支援制度（博士後期課程）

博士前期課程修了者博士号取得支援制度とは、本学大学院博士前期課程又は修士課程を修了し、1年以上の社会経験を経た者を対象として、本学博士後期課程への入学と博士号の取得を支援する制度です。

博士前期課程修了者博士号取得支援制度により入学する者からは、入学料を徴収しません。また、長期履修学生制度や教育方法の特例制度も申請することが出来ます。

本支援制度は2020年度入学者から適用しています。<https://www.nara-wu.ac.jp/nyusi/d-support.html>

6 奈良女子大学次世代研究者育成プログラム SGC-NEXUS（博士後期課程）《SGC Shattering the Glass Ceiling ～ガラスの天井を超え、社会や後進とのつながりを築いていくあなたを応援します～》

本学大学院では、優秀な女子学生が経済的負担や学位取得後のキャリアパスに過大な不安を抱えることなく、博士後期課程へ進学し研究できる体制を構築することを目的として、先行する2つのプログラムを改編し、2024年度より「奈良女子大学次世代研究者育成プログラム SGC-NEXUS」という新たなプロジェクトに取り組んでいます。このプロジェクトでは、学生への多面的な支援（経済的支援、研究力向上支援、キャリアパス支援）を行います。なお、このプロジェクトは国の制度見直しに伴い、2027年度以降は制度内容が変更されることとなり、新制度の公募が実施されています。本学では博士後期課程学生への支援を継続して提供できるよう、新制度への応募等の対応を行っております。詳細は、本学キャリア開発支援本部ホームページ（<https://cdpd.nara-wu.ac.jp>）を参照してください。

7 教育方法の特例制度

博士後期課程では「大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例」の制度を実施しています。

この制度は、入学時又は入学後において学業に専念できない事情を有する者に対して、教育上特別の必要があると認められる場合で、かつ、受入側である専攻の事情や教育環境が許す場合には、その者の事情を考慮し、夜間その他特定の時間又は時期（夏期休業など）において授業又は研究指導を行うものです。

8 入学料・授業料免除及び奨学金

入学料の免除等 経済的理由により入学料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる場合、入学料の全額あるいは半額を免除、または納付を一定期間猶予する制度があります。

授業料の免除等 経済的理由により授業料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる場合、授業料の全額あるいは一部の額を免除、または納付を一定期間猶予する制度があります。また、博士後期課程に進学する方を支援するための各種授業料免除制度も設けています。詳細は大学ホームページ（<https://www.nara-wu.ac.jp/nwu/campuslife/scholarship/exemption/index.html>）を参照してください。

奨 学 金 (1) 日本学生支援機構の奨学金
独立行政法人日本学生支援機構が、教育の機会均等に寄与するため学資の貸与等を行い人材育成に資することを目的として、経済的理由により修学に困難がある優れた学生等に対して奨学金を貸与しています。卒業・修了後に返還された奨学金は、後輩の奨学金として再び活用されます。無利子の第一種奨学金と有利子の第二種奨学金があり、詳細は、大学ホームページ（<https://www.nara-wu.ac.jp/nwu/campuslife/scholarship/jasso/>）を参照してください。

(2) 地方公共団体や財団法人等の奨学金

地方公共団体や財団法人等民間育英団体が募集する奨学金制度があり、大学に案内が届くほか、多くがホームページ等により公募されます。大学に案内が届いた奨学金については、大学ホームページ（<https://www.nara-wu.ac.jp/nwu/campuslife/scholarship/other.htm>）を参照してください。

9 充実した博士後期課程学生への経済的支援

1 日本学術振興会の特別研究員に対する授業料免除

本学学生が日本学術振興会の特別研究員を積極的に目指すことを目的として、特別研究員に採用された者は、採用されている期間において納付すべき授業料の全額を免除する制度を設けています。

2 奈良女子大学次世代研究者育成プログラム SGC-NEXUS

本学は2024年度から科学技術振興機構（JST）の「次世代研究者挑戦的研究プログラム（新SPRING）」の実施機関として採択され、「SGC-NEXUS」を創設しました。この制度は、優秀な女子学生が経済的負担や学位取得後のキャリアパスに過大な不安を抱えることなく、博士後期課程へ進学し研究できる体制を構築することを目的とし、以下の経済的支援を行っています。

なお、このプログラムは国の制度見直しに伴い、2027年度以降は制度内容が変更されることとなり、新制度の公募が実施されています。本学では、博士後期課程学生への支援を継続して提供できるよう、新制度への応募等の対応を行っています。

「SGC-NEXUS」の経済的支援（参考：2026年度の例）

研究奨励費：20万円／月（最長3年間）

研究費：18万円／年間

3 サンディスク奨学金

サンディスク合同会社から奈良女子大学なでしこ基金に寄附された寄附金をもって、「サンディスク奨学金」が創設されました。この奨学金は、理工系分野の学修に意欲のある優秀な者に支給し、研究意欲の促進および有為な理工系人材の育成に資することを目的としています。

奨学金：年額40万円の奨学金を3年間支給

授業料：3年間全額免除

4 博士後期課程進学支援授業料免除

博士後期課程における導入期に経済的な不安を取り除き、研究に専念できることを目的とし、博士後期課程1年次に在学する者で研究遂行のために授業料を免除することが相当と認められる場合、授業料の半額を免除する制度があります。SGC-NEXUSに採用され、研究奨励費（年間240万円）を支給される者以外は希望者全員を対象としています。

5 優れた業績等による授業料免除

優れた研究活動の推進を目的として、研究遂行のため授業料を免除することが相当と認められる場合は、納付すべき授業料が全額又は一部免除される制度があります。

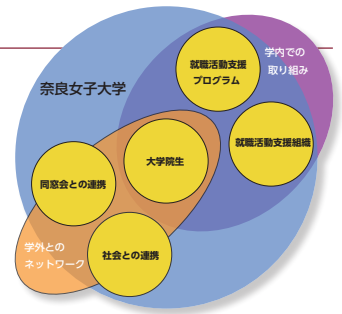
本学では、日本学術振興会の特別研究員やSGC-NEXUSプログラムなどのほかに、研究費を支援する「みかさフェロースhip」があります。ここでは、研究計画・予算計画の作成から、研究遂行のみならず、財務執行に関する経験を積み、研究成果の報告までの一連の実践トレーニングを通して、女性研究者としての実績を積み重ねることができます。この「みかさフェロースhip」に採用され、特に優れた研究計画を持ち、研究活動実績を積み重ねていると認められる博士後期課程2年次又は3年次学生に対して「優れた業績等による授業料免除」対象者として、当該年度において授業料を全額または一部免除するものです。

https://www.nara-wu.ac.jp/nwu/campuslife/scholarship/doctor/doctoral_program.htm

10 キャリア形成支援

社会の第一線で通用する「キャリア」と「自立心」を育てる

大学院生が修了後、社会の第一線で活躍できる高度専門職業人、研究者、教育者となるために、本学では在学時から将来を見据えてキャリアを形成・開発するとともに、自立した人間として考え、判断し、行動できる力を養っています。



1 年間を通じた「就職活動支援プログラム（行事）」

より効果的な就職活動ができるように、年間を通じて各種の就職活動支援プログラム（行事）を実施しています。なかでも学内合同企業説明会は、学生に最も関心が高く、この説明会を通じて企業理解を深めています。

就職対策の主な講座

自己分析講座、業界・企業研究講座、エントリーシート対策講座、ビジネスマナー講座、面接対策講座、学内合同企業説明会、グループディスカッション実践講座 など

教員・公務員採用試験対策の主な講座

教員・公務員採用試験対策講座、国家・地方公務員採用試験説明会、公立学校教員採用試験説明会 など

2 全学挙げてサポート「就職活動支援体制」

各学科・専攻に就職担当教員を配置し、教員と事務職員が連携する全学的な支援体制のもとで学生の就職活動を支援しています。キャリアコンサルタント資格を有するキャリアアドバイザーが、進路や就職活動に関する個別相談を対面・オンライン双方で実施し、学生一人ひとりに寄り添ったサポートを行っています。

3 在学時に社会体験「社会との連携（インターンシップ）」

企業と連携して中長期の研究インターンシップを実施する一般社団法人産学協働イノベーション人材育成協議会（C-ENGINE）に参画しています。

また、正課インターンシップ科目「実践型キャリア教育プログラムⅡ」を開講し、採用・連携実績のある企業・団体を受入先とした就業体験を含む5日間以上のプログラムを行う他、地方自治体や民間企業が実施するインターンシップにも、数多くの学生が実習生として積極的に参加しています。

4 歴史と伝統が支える「卒業生ネットワーク（同窓会との連携）」

本学は奈良女子高等師範学校を前身とする歴史と伝統を有し、卒業生による同窓会組織「佐保会」を通じて全国に広がるネットワークを築いています。とりわけ首都圏においては、佐保会東京支部の協力のもと例年就職懇談会を開催しています。学生に近い世代から幅広い年代のOGが出席し、研究と仕事の両立、出産・育児・介護といったライフイベントを含むキャリア形成について具体的に語ります。また、東京における本学の評価や実情に触れる機会ともなっており、将来を展望するうえでの貴重な場となっています。

11 学業・研究とライフイベントの両立、キャリア開発支援

子育てしながら学位取得を目指せる奈良女子大学学生から、女性研究者まで出産、育児、キャリア開発まで男女共同参画推進機構は心強い味方です

多様な大学院生、とりわけ育児や介護等のライフイベントと、学業・研究の時期が重なっている方が、どちらも諦めることなく、ご自身のキャリアを築くための支援をするのが、男女共同参画推進機構です。

1 学業・研究・仕事と出産・育児・介護等を両立するために

・子育て支援システム「ならっこネット」

支援対象である本学関係者の学業・研究・仕事と出産・子育ての両立を支える、子どもの預かり・送迎等のサポートを行います。ダイバーシティ研究環境支援本部が開発したWebシステム「Webならっこ」を介して、利用者は、登録サポーターへの支援依頼から終了までをPC やスマートフォン等でフォローできます。通常時（健康時）託児支援に加えて、病児・病後児保育支援も運用をしています。写真は学内での子どもの預かり支援のための専用託児ルーム「ならっこルーム」です。



ならっこルーム

• 奈良女子大学「育児奨学金」

育児中の本学学部及び大学院に在籍する正規学生を支援しています。

【支援対象】 奈良女子大学子育て支援システム「ならっこネット」に登録・利用がある方

【支援内容】 半年ごとに利用経費の実費を授与（上限あり）。ただし、利用者の子どもが小学6年生以下に限ります。申請窓口は学生生活課学生支援係です。

• ワークライフバランス支援相談室

カウンセラーが、学生・留学生、教職員の相談を幅広く受けています。たとえば、思春期から更年期までのこころとからだの健康相談、妊娠・出産・育児・家族に関する相談、介護（高齢者・障がい者）に関する相談、生活環境や研究環境に関する相談など。

2 大学院生、ポストドクターに特化したキャリア開発支援

男女共同参画推進機構の中に位置づけられた、キャリア開発支援本部が、大学・公的研究機関や民間企業をはじめ、様々な分野で活躍できる女性人材の育成をサポートします。

• 研究インターンシップ

主に以下の研究インターンシップのサポートをしています。

【C-ENGINE 研究インターンシップ】

産学協働イノベーション人材育成協議会による博士前期・後期課程学生を対象としたもので、中長期（1か月程度が多い）のテーマが主流。

【ジョブ型研究インターンシップ】

ジョブ型研究インターンシップ推進協議会による博士後期課程学生のみを対象としたもので、有給、長期（2か月以上を推奨）であることが特徴。



インターンシップ（社内成果発表会）

• キャリア相談・自己分析セミナー

就職活動や進路についての相談に加え、自己分析セミナーでは「キャリア」を幅広い概念としてとらえ、自分自身をていねいに見つめ直すことで「個人の特性を活かした働き方・生き方探し」を支援します。

• 博士キャリア開発支援制度（DCD 支援制度）・英語論文校閲経費支援

博士後期課程学生と博士研究員の就職活動、学会活動の交通費支援（DCD 支援）や英語論文校閲経費を支援します。

• 各種イベントや授業の企画・実施

キャリア形成や研究力向上につながる各種イベントや、学生と教員の研究をつなぐみかさプログラム「みかさカフェ」、博士後期課程の授業の企画・実施を行っています。これらを通じて、大学院生が研究で身につける「トランスファラブルスキル（転用可能な能力）」の意識化・修得を支援します。

• その他の各種支援

SGC-NEXUS プログラムという博士後期課程学生に対する経済的支援やキャリアパス支援、学振特別研究員申請支援、「みかさフェロシップ」による研究費支援等に関わる活動も行っています。

奈良女子大学男女共同参画推進機構 URL <https://gepo.nara-wu.ac.jp/>

12 修了者の進路

https://www.nara-wu.ac.jp/nwu/intro/about/pdf/2026/shinro_R7.pdf



13 大学院修了者の主な就職先企業等名一覧

https://www.nara-wu.ac.jp/nwu/syusyoku/syusyoku_r7.htm



学位取得者の論文題目一覧（2026年3月修了者）

https://www.nara-wu.ac.jp/nwu/syusyoku_r7.htm



在学者・修了者の声

在学者の声

【博士前期課程】

三牧 莉子

人間文化総合科学研究科 博士前期課程 住環境学専攻

建築ってなんだろう、家ってなんだろう、生活ってなんだろう。答えの分からない問いと対峙して自分のことばで考え、実践したい。そう思って大学院に進学しました。

住環境学専攻博士前期課程では、修士論文と修士設計のいずれかを選択し修了することができます。私は現在、住環境デザイン学を専門とする研究室に所属しながら住居論に関する修士研究を進めています。建築とランドスケープを軸にした住環境の設計、テーマに沿ったブックレットの制作、研究室プロジェクトといった実践的な活動から、奈良・関西圏の伝統建築の見学、他の学生や先生と議論をしながら知識に触れる座学の授業まで、頭と手と足をよく動かしながら考え学ぶ機会に恵まれています。

これまでの私は、誰かがきっとこのもやもやに対して分かりやすい答えを教えてくださいと期待をしていました。しかし大学院の学びの中で気づいたのは、他者は答えを教えるのではなく問いを深めながら自らのことばを築くための力を持つ存在だということです。仮の答え、素朴な意見、小さな問いを互いに投げかけあいながら、ひとつの成果に向かって挑戦できる場が大学院であると感じています。周囲への感謝と根源的な問いに向き合う勇気を忘れずに、ひらかれた場で選択し実践する積み重ねを今後も続けていきたいと思えます。

【博士後期課程】

餅田 尚子

人間文化総合科学研究科 博士後期課程 生活環境科学専攻
食物栄養学講座

私は2012年より畿央大学に所属し、現在に至るまで、柿に豊富に含まれるタンニンの機能性について研究しています。柿タンニンには血圧低下、脂質低下、血糖低下、抗酸化、抗炎症、抗菌など多様な機能性があることが報告されています。私はその中でも、特に脂質低下作用と抗酸化作用に着目し、そのメカニズムの解明に取り組んでいます。

在職中の2016年、恩師からの勧めで、奈良女子大学大学院博士後期課程へ社会人大学院生として進学しましたが、在学中に出産し、育児と仕事をこなしながら研究を進める生活の中で、年限内に学位を取得することが叶わず、2023年に同課程を一度退学しました。

しかし、その後も自分のペースで研究を続ける中で、奈良女子大学の「再チャレンジ型女性研究者支援制度」を知り、2026年4月、この制度を利用して再び同大学博士後期課程に入学することにしました。この制度は、出産や子育て、介護などのライフイベントにより博士課程を途中で離れた研究者が、学位取得を目指して再挑戦することを支援するものです。私のように一度は学位を断念せざるを得なかった者にとって非常に大きな後押しとなる制度であり、現在はこの制度の支援を受けながら、博士号取得に向けて研究を進めています。

在学者・修了者の声

修了者の声

【博士前期課程】

高見 風夏

人間文化総合科学研究科 博士前期課程 化学生物環境学専攻
化学コース

化学生物環境学専攻化学コースは物理・有機・無機化学の3大分野から成り、自分の興味に合わせて研究室を選択できるのが大きな魅力です。私は生活用品に密接に関わる界面活性剤に惹かれ、コロイド・界面化学を専門とする研究室に入り、合成や物性評価に関する研究に取り組んできました。

奈良女子大学には6年一貫教育プログラムの制度があります。私は、この制度を利用して学部のうち大学院の授業を先行履修したことで、院進学後は講義の負担を軽減し、より早い段階から研究活動に集中することができました。

研究活動では、学内での活動にとどまらず、外部の大型実験施設 SPring-8 や JRR-3 などを利用した泊まりがけの実験や学会発表などの経験を積む機会も豊富です。また、先生の熱心で丁寧な指導や、日々の議論を通じて研究への理解をより深めることができます。さらに、キャンパスの近くには東大寺や春日大社などの観光名所が多く、研究の合間に出かけてリフレッシュすることができます。こうした恵まれた環境で研究に没頭する中で、より専門性を高め、研究を極めたいという思いが強まり、博士前期課程修了後は博士後期課程への進学を決意しました。

大学院は、学びや経験を通じて知識や技術を身につけるだけでなく、自分自身も成長できる場所です。皆さんも、ぜひ本学で自分の成長につながる研究生活を送ってほしいと思います。

【博士後期課程】

畢 舜堯

人間文化総合科学研究科 博士後期課程 人文科学専攻 社会人間学講座
社会学コース

社会の変化のなかで、人々が子どもを持つかどうかをどのように考えているのかに関心を持ち、大学院後期課程への進学を決めました。後期課程では、中国都市部女性の出産意向をテーマに、女性の性別役割分業意識や子どもの価値意識がどのように出産の選択と結びつくのかについて研究を行いました。

博士課程での研究は決して平坦なものではなく、研究テーマがなかなか定まらず、どのように研究を進め、論文としてまとめていくのか悩む時期もありました。しかし、先生方から研究の視点や考え方について丁寧な助言をいただき、さらに先輩や院生の仲間との議論を重ねる中で、少しずつ自分の研究の方向が見えてきました。その経験を通して、研究は一人で抱え込むものではなく、多くの人との対話の中で深まっていくものだと実感しました。

ゼミや研究発表では、多様な分野の院生と意見を交わす機会があり、自分とは異なる視点から物事を考えることの大切さを学びました。こうした奈良女子大学の環境の中で研究に向き合えたことは、私にとって大きな財産です。大学院生活で培った探究心と粘り強さを大切にし、これからも家族や社会に関する課題について考え続けていきたいと思っています。

入試情報 <https://www.nara-wu.ac.jp/entrance.html>

奈良女子大学大学院に関する情報について、ホームページから確認することができます。学生募集要項のダウンロード、入学者選抜状況や過去問題も掲載しています。最新の入試情報はホームページに掲載しますので、必ずホームページをご確認ください。



資料請求 <https://www.nara-wu.ac.jp/nyusi/nyusi4.html>

大学院案内や学生募集要項を請求できます。大学院博士前期課程及び生活工学共同専攻（博士後期課程）を志願される方は、学生募集要項が必要となります。



大学院個別相談会 <https://www.nara-wu.ac.jp/nyusi/open.html>

指導を希望する教員と入学後の研究内容について、相談ができます。令和8年度は2回開催を予定していますので、是非ご参加ください。



令和8年度個別相談会日程（事前申込制）

第1回目 令和8年5月18日（月）～5月22日（金） **第2回目** 令和8年10月26日（月）～10月29日（木）

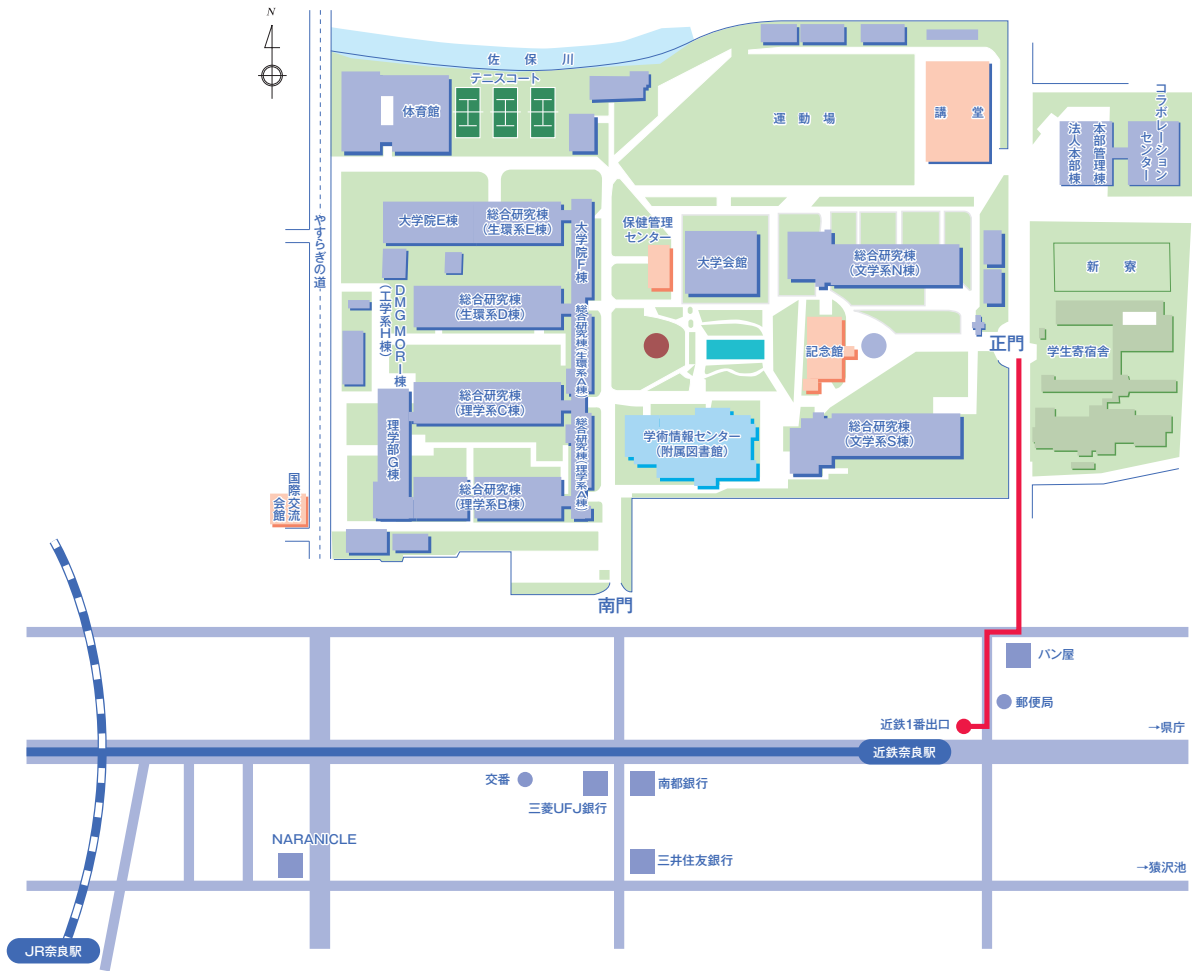
令和8年度 入学者選抜状況 過去の入学者選抜状況はホームページでも確認できます。

博士前期課程

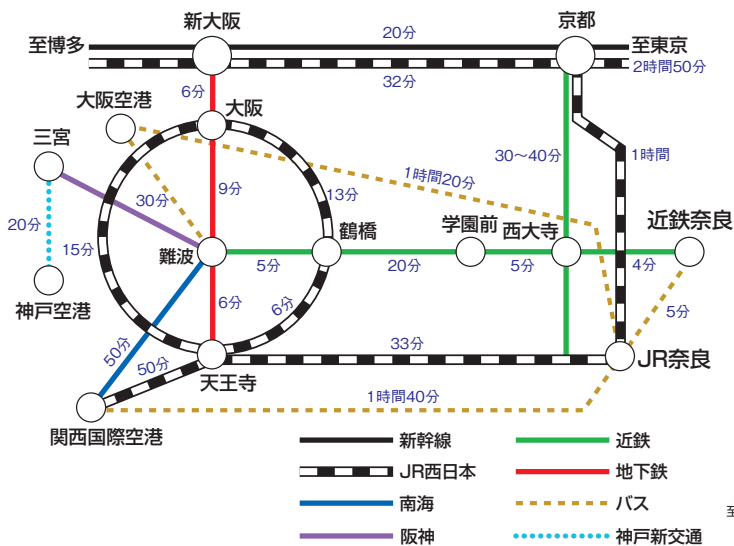
専攻	コース	募集人員	一般選抜				社会人特別選抜				外国人留学生特別選抜				推薦選抜			6年一貫特別選抜			合計					
			志願者	受験者	合格者	入学者	志願者	受験者	合格者	入学者	志願者	受験者	合格者	入学者	志願者	受験者	合格者	入学者	志願者	受験者	合格者	入学者	志願者	受験者	合格者	入学者
人文社会学専攻	歴史学コース	18	4	4	4	3	4	4	2	2	0	0	0	0				3	3	3	3	11	11	9	8	
	地理学コース		1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0				1	1	1	1	2	2	2	2	
	社会学コース		3	3	2	1	0	0	0	0	0	15	15	7	4				1	1	1	1	19	19	10	6
	専攻計		8	8	7	5	4	4	2	2	15	15	7	4				5	5	5	5	32	32	21	16	
言語文化学専攻	日本アジア言語文化学コース	12	1	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0				1	1	1	1	3	3	1	1	
	ヨーロッパ・アメリカ言語文化学コース		5	5	5	4	0	0	0	0	1	1	1	1				2	2	2	2	8	8	8	7	
	専攻計		6	6	5	4	0	0	0	0	2	2	1	1				3	3	3	3	11	11	9	8	
人間科学専攻	教育学・人間学コース	12	3	2	2	1	0	0	0	0	2	2	1	0				0	0	0	0	5	4	3	1	
	心理学コース		7	6	5	4	2	2	1	0	2	2	1	0				2	2	2	2	13	12	9	6	
	専攻計		10	8	7	5	2	2	1	0	4	4	2	0				2	2	2	2	18	16	12	7	
食物栄養学専攻		13	6	6	6	6	0	0	0	0	0	0	0				10	10	10	8	16	16	16	14		
心身健康学専攻	生活健康学コース	22	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0				3	3	3	2	4	4	4	3		
	臨床心理学コース		30	30	9	8	1	1	0	0	1	1	0	0				4	4	4	3	36	36	13	11	
	スポーツ科学コース		2	2	2	2	0	0	0	0	1	1	1	1				0	0	0	0	3	3	3	3	
	専攻計		33	33	12	11	1	1	0	0	2	2	1	1				7	7	7	5	43	43	20	17	
情報環境学専攻	衣環境学コース	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				0	0	0	0	0	0	0	0		
	生活情報通信科学コース		1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	6	6	6	5	5	5	5	13	12	11	11
	専攻計		1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	6	6	6	5	5	5	5	13	12	11	11
住環境学専攻		13	19	18	15	13	0	0	0	0	1	1	0	0				4	4	4	4	24	23	19	17	
生活文化学専攻		7	5	5	4	4	0	0	0	0	2	2	2	2				0	0	0	0	7	7	6	6	
数物科学専攻	数学コース	28	3	3	3	3	0	0	0	0	0	0	0	2	2	2	2	4	4	4	3	9	9	9	8	
	物理学コース		20	20	13	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	11	11	11	31	31	24	22	
	数物連携コース		3	3	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	4	4	2	2	
	専攻計		26	26	17	15	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	2	2	16	16	16	15	44	44	35	32
化学生物環境学専攻	化学コース	42	24	24	17	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	7	7	7	31	31	24	22		
	生物科学コース		10	10	9	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13	13	13	13	23	23	22	19	
	環境科学コース		8	8	7	3	0	0	0	0	1	1	1	1	0	0	0	4	4	4	4	13	13	12	8	
	専攻計		42	42	33	24	0	0	0	0	1	1	1	1	0	0	0	24	24	24	24	67	67	58	49	
工学専攻		25	27	27	26	26	0	0	0	0	2	2	1	1				11	11	11	11	40	40	38	38	
合計		202	183	180	132	113	7	7	3	2	29	29	15	10	9	8	8	8	87	87	87	82	315	311	245	215

博士後期課程

専攻名	講座名	募集人員	一般選抜				社会人特別選抜				外国人留学生特別選抜				合計			
			出願者	受験者	合格者	入学者	出願者	受験者	合格者	入学者	出願者	受験者	合格者	入学者	出願者	受験者	合格者	入学者
人文科学専攻	比較文化学講座	12	2	2	1	1	2	2	2	2	1	1	1	1	5	5	4	4
	社会人人間学講座		2	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	5	5	4	4
	専攻計		4	4	3	3	4	4	3	3	2	2	2	2	10	10	8	8
生活環境科学専攻	食物栄養学講座	14	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1
	心身健康学講座		1	1	1	1	3	3	3	3	0	0	0	0	4	4	4	4
	情報環境学講座		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	住環境学講座		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	生活文化学講座		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	専攻計		2	2	2	2	3	3	3	3	0	0	0	0	5	5	5	5
自然科学専攻	数物科学講座	10	5	5	5	5	0	0	0	0	0	0	0	5	5	5	5	
	化学生物環境学講座		5	4	4	3	0	0	0	0	1	1	1	1	6	5	5	4
	専攻計		10	9	9	8	0	0	0	0	1	1	1	1	11	10	10	9
生活工学共同専攻		2	2	2	2	2	0	0	0	0	0	0	0	2	2	2	2	
計		38	18	17	16	15	7	7	6	6	3	3	3	3	28	27	25	24



交通アクセス



- 京都から** ● 近鉄京都線まで近鉄奈良まで特急約35分、急行45分+徒歩約5分
- 新大阪から** ● JR東海道本線で大阪駅へ、JR大阪環状線(外回り)で鶴橋へ、近鉄奈良線(快急・急行)で近鉄奈良まで約60分+徒歩約5分
- 大阪から** ● JR大阪環状線(外回り)で鶴橋へ、近鉄奈良線(快急・急行)で近鉄奈良まで約50分+徒歩約5分
- 難波から** ● 近鉄奈良線(快急・急行)で近鉄奈良まで約35分+徒歩約5分
- 天王寺から** ● JR和路快速でJR奈良駅まで約30分+バス5分+徒歩約5分
● JR大阪環状線(内回り)で鶴橋へ、近鉄奈良線(快急・急行)で近鉄奈良まで約45分+徒歩約5分

- 大阪空港から** ● 空港バスでJR奈良まで約80分+近鉄奈良までバス約5分+徒歩約5分
● 空港バスで難波へ、近鉄奈良線(快急・急行)で近鉄奈良まで約70分+徒歩約5分
- 関西国際空港から** ● 空港バスでJR奈良まで約100分+近鉄奈良までバス約5分+徒歩約5分
● 南海空港急行で難波へ、近鉄奈良線(快急・急行)で近鉄奈良まで約110分+徒歩約5分
● JR関空快速で天王寺へ、JR大阪環状線(内回り)で鶴橋へ、近鉄奈良線(快急・急行)で近鉄奈良まで約100分+徒歩約5分
- 三宮から** ● 阪神なんば線・近鉄奈良線(快急)で近鉄奈良まで約80分+徒歩約5分
- 神戸空港から** ● 神戸新交通ポートアイランド線で三宮へ、阪神なんば線・近鉄奈良線(快急)で近鉄奈良まで約100分+徒歩約5分



奈良女子大学

Nara Women's University